

平成25年第5回糸魚川市議会定例会会議録 第4号

平成25年9月3日(火曜日)

議事日程第4号

平成25年9月3日(火曜日)

午前10時00分 開議

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

本日の会議に付した事件

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

応招議員 20名

出席議員 20名

| | | | |
|-----|---------|-----|--------|
| 1番 | 笠原幸江君 | 2番 | 斉木勇君 |
| 3番 | 渡辺重雄君 | 4番 | 吉川慶一君 |
| 5番 | 樋口英一君 | 6番 | 保坂悟君 |
| 7番 | 田中立一君 | 8番 | 古川昇君 |
| 9番 | 伊藤文博君 | 10番 | 中村実君 |
| 11番 | 大滝豊君 | 12番 | 高澤公君 |
| 13番 | 田原実君 | 14番 | 伊井澤一郎君 |
| 15番 | 吉岡静夫君 | 16番 | 新保峰孝君 |
| 17番 | 倉又稔君 | 18番 | 松尾徹郎君 |
| 19番 | 五十嵐健一郎君 | 20番 | 古畑浩一君 |

欠席議員 0名

説明のため出席した者の職氏名

市長 米田 徹君 副市長 織田 義夫君

+

| | | | |
|---|--------|---|--------|
| 総務部長 | 金子裕彦君 | 市民部長 | 吉岡正史君 |
| 産業部長 | 加藤政栄君 | 総務課長 | 田原秀夫君 |
| 企画財政課長 | 斉藤隆一君 | 能生事務所長 | 久保田幸利君 |
| 青海事務所長 | 山岸寿代君 | 市民課長 | 竹之内豊君 |
| 環境生活課長 | 渡辺勇君 | 福祉事務所長 | 加藤美也子君 |
| 健康増進課長 | 岩崎良之君 | 交流観光課長 | 藤田年明君 |
| 商工農林水産課長 | 斉藤孝君 | 建設課長 | 串橋秀樹君 |
| 都市整備課長 | 金子晴彦君 | 会計管理者 会計課長兼務 | 横田靖彦君 |
| ガス水道局長 | 小林忠君 | 消防長 | 小林強君 |
| 教育長 | 竹田正光君 | 教育次長 教育委員会こども課長兼務 | 伊奈晃君 |
| 教育委員会こども教育課長 | 池田修君 | 教育委員会生涯学習課長 中央公民館長兼務 市民図書館長兼務 勤労青少年ホーム館長兼務 | 原郁夫君 |
| 教育委員会文化振興課長 歴史民俗資料館長兼務 長者ヶ原考古館長兼務 | 佐々木繁雄君 | 監査委員事務局長 | 池田正吾君 |

事務局出席職員

+

+

| | | | |
|------|-------|----|------|
| 局長 | 小林武夫君 | 次長 | 猪又功君 |
| 主任主査 | 水島誠仁君 | | |

午前10時00分 開議

議長（樋口英一君）

おはようございます。
 これより本日の会議を開きます。
 欠席通告議員はありません。
 定足数に達しておりますので、直ちに会議を開きます。

日程第1．会議録署名議員の指名

議長（樋口英一君）

日程第1、会議録署名議員の指名を行います。
 会議録署名議員には、1番、笠原幸江議員、11番、大滝豊議員を指名いたします。

+

日程第2．一般質問

議長（樋口英一君）

日程第2、一般質問を行います。

昨日に引き続き、通告順に発言を許します。

倉又 稔議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

倉又議員。〔17番 倉又 稔君登壇〕

17番（倉又 稔君）

おはようございます。

清生クラブの倉又 稔でございます。

1、子宮頸がん予防ワクチン接種について。

今年3月29日に、予防接種法改正案が参議院本会議で可決され、今まで任意接種であった子宮頸がん予防ワクチンが定期接種化されました。

糸魚川市では、平成23年2月から対象者に対し、市の全額負担で子宮頸がん予防ワクチンを接種してきましたが、定期接種化により、4月1日からは、国の全額負担による接種となりました。

定期接種化は、接種を義務付けるものではありませんが、当市が全額負担で取り組んだ、平成22年度からの接種状況では、平成22年度が対象者199人に対し、67人、33.7%の接種率。平成23年度は、対象者1,010人に対し796人、78.8%の接種率でありました。

子宮頸がん予防ワクチンは、子宮頸がんを予防するワクチンではありません。子宮頸がんの原因となるヒトパピローマウイルス（HPV）の感染予防ワクチンです。言い換えれば、性交渉によって感染することを防ぐ性感染予防ワクチンです。

子宮頸がんは、初めての性交渉経験年齢が若い程、また、性交渉相手が多い程発生の危険性が高いと言われていています。

このようなことから、子宮頸がん予防ワクチンに限らず、ワクチンには必ず副反応が伴うこと。また、小・中学生に正しい性教育と道徳教育の充実を訴え、子宮頸がん予防ワクチンの接種については、一貫して反対してきました。

そこで次の点を伺います。

- (1) 子宮頸がんの発生原因としてどんなことが考えられるか。
- (2) 子宮頸がん予防ワクチン接種に伴う副反応について、対象者及びその保護者にどのような説明をしてきたか。
- (3) 子宮頸がん予防ワクチン接種が原因で市内に重篤副反応被害者が出た場合、市はどのように責任を取るのか。
- (4) 小・中学生に対し、道徳教育及び性教育をどのように行っているのか。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

おはようございます。

倉又議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、ヒトパピローマウイルスが大きな関係をしとると捉えておりません。

2点目につきましては、年度初めに保護者へ関係資料を郵送し、その後に相談会を実施して、副反応があらわれた場合は市に連絡くださるよう説明をいたしております。

なお、厚生労働省が6月に積極的な接種勧奨を差し控えることといたしましたので、市といたしましても対象保護者へ文書で周知いたしました。

3点目につきましては、現在まで被害の報告はありませんで、今後、発生した場合は、予防接種法に基づいての補償となります。

4点目につきましては、道徳の時間では小学校高学年の男女協力や、中学校の異性の理解等の主題を通じて性差の違いを理解した上で、異性を大切に思いやる心の育成を図っております。

また、小・中学校の学級指導や体育の保健分野、総合的な学習の時間等を活用して、年齢に応じた性に関する指導を積み重ねております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もでございますので、よろしく願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

倉又議員。

17番（倉又 稔君）

それでは再質問いたします。

子宮頸がん予防ワクチンはどのようなワクチンで、何を予防するのか、まず、そこからお聞きします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

岩崎健康増進課長。〔健康増進課長 岩崎良之君登壇〕

健康増進課長（岩崎良之君）

おはようございます。よろしくお願いいたします。

子宮頸がん予防ワクチンにつきましては、子宮頸がんの発生要因とされておりますヒトパピローマウイルスに感染した場合、その感染を予防するためのワクチンでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

倉又議員。

17番（倉又 稔君）

子宮頸がん予防ワクチンと聞けば、一般の人たちはどのようなことを連想するかお聞きしたいで

す。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

岩崎健康増進課長。〔健康増進課長 岩崎良之君登壇〕

健康増進課長（岩崎良之君）

ご質問の趣旨にもございましたが、子宮頸がん予防ワクチンという名称ですので、子宮頸がんそのものを予防するワクチンという形で捉えられるかと思いますが、実際的には子宮頸がんの発生には、先ほども言いましたようにヒトパピローマウイルスが子宮頸がんになった患者さんの90%以上の方から見つかるということで、このヒトパピローマウイルスが子宮頸がん予防ワクチンに大きくかかわっているというふうと考えられておまして、そのウイルスの感染予防のワクチンでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

倉又議員。

17番（倉又 稔君）

今ほど課長が申しましたとおり、普通の人にはワクチンを接種すれば、子宮頸がんにかからないと連想するのが普通ではないですか。

子宮頸がんの発生原因は数多くありまして、HPVに限らず地域、人種、年齢、遺伝、食事、たばこ、生活習慣などいろいろ考えれば、まだまだ挙げることができます。子宮頸がん発生原因の多くが、いまだに解明されてない要因が多い中で、1つのワクチンで、全ての子宮頸がんを予防できると思えますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

岩崎健康増進課長。〔健康増進課長 岩崎良之君登壇〕

健康増進課長（岩崎良之君）

先ほども述べましたが、実際に子宮頸がんにかかった方の90%以上から、このウイルスが発見されますことから、このウイルスが、がんにかかわっているということで考えられておまして、そのウイルスに感染しないために、今回のワクチン接種をさせていただいているところでございます。

ただ、ヒトパピローマウイルスにつきましては、全部で100種類以上ございまして、その中で危険が高いのが約15種類ぐらいと言われております。その中でも特に16型と18型ですか、これが子宮頸がんのおよそ6割にかかわっているということがございまして、おおよそその6割程度の方に効果があるということで、ワクチン接種をさせていただいているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

倉又議員。

17番（倉又 稔君）

初めて性行為をした時期には、約60%の人がヒトパピローマウイルス（HPV）に感染すると
 言われております。その約90%が、自然に排出されて消滅します。残り10%のうち、がんま
 で発展するのは10%から15%程度と言われております。最終的には、0.01から0.015%
 であります。この数字でよろしいですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

岩崎健康増進課長。〔健康増進課長 岩崎良之君登壇〕

健康増進課長（岩崎良之君）

数字的には、今おっしゃったとおりと思っています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

倉又議員。

17番（倉又 稔君）

今まで当市で接種されたワクチン名、それから製薬会社、その製薬会社のある国名が、わかっ
 たら教えてください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

岩崎健康増進課長。〔健康増進課長 岩崎良之君登壇〕

健康増進課長（岩崎良之君）

ワクチンにつきましては、2種類ワクチンがございまして、ガーダシルとサーバリックスという
 2種類のワクチンでございます。当初からワクチンとして接種されているのがサーバリックスで
 ございまして、後から出てきたのがガーダシルでございます。実際、製薬の国等は、ちょっと申しわ
 けありません、承知しておりません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

倉又議員。

17番（倉又 稔君）

サーバリックスはイギリスの製薬会社です。ガーダシルはアメリカの製薬会社です。このワクチ
 ンは、特にサーバリックスは16型と18型に効果があると言われてます。欧米ではHPVの
 16型、18型が多く、日本では52型、58型が多いことが明らかにされております。欧米での
 データに基づいてつくられたワクチンが、日本でどの程度効果があるのか。市独自で調査したり、
 もしわからなかったら厚生労働省あたりに問い合わせ、市の全額負担によるワクチン接種に踏み
 切ったのかどうか、その辺をお聞かせ願いたい。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

岩崎健康増進課長。〔健康増進課長 岩崎良之君登壇〕

健康増進課長（岩崎良之君）

効果につきましては今ほどおっしゃったように、欧米では約70%効果があるというふう

ていますし、日本の場合は先ほど言いました約60%前後ということで、そういう数字で出ております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

倉又議員。

17番（倉又 稔君）

今ほど日本では約60%が効果がある。どういうデータに基づいて出てきた数字ですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

岩崎健康増進課長。〔健康増進課長 岩崎良之君登壇〕

健康増進課長（岩崎良之君）

数字につきましては、厚生労働省が薬として認可する際のデータという形で数字が出ておりますし、もう1つは製薬会社が薬の説明をする中で、そういう形で出ております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

倉又議員。

17番（倉又 稔君）

厚労省だとか製薬会社、それはまた後にしまして、じゃあHPVは性行為がなければ絶対に感染しない。夫婦になるまで一度も性行為をしたことのない男女が、結婚してHPVに感染するかどうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

岩崎健康増進課長。〔健康増進課長 岩崎良之君登壇〕

健康増進課長（岩崎良之君）

このウイルスの感染は性行為による感染でございますことから、今、議員がおっしゃったように、どちらも生涯初めてですと、感染はしないというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

倉又議員。

17番（倉又 稔君）

じゃあ副反応のほうを少し聞かせてもらいます。

ワクチンにはどんなワクチンでも必ず副反応が伴います。副反応により命を落とすこともあります。ワクチン接種はその危険性と比較して、なお市民を守ることができるという利益がなければ、受けさせることはできないんじゃないですか、前提じゃないですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

岩崎健康増進課長。〔健康増進課長 岩崎良之君登壇〕

健康増進課長（岩崎良之君）

議員さんが今おっしゃったように、どんなワクチンでもやはり副反応がございます。その中で今、問題になっているのは、特に発生割合が高いということで問題になっています。

参考までに副反応の発生率ということで、100万回当たりの発生率でございますが、先ほどのサーバリックスは245回、ガーダシルは155回です。それに対して例えば日本脳炎等では67回となっております。そういう中で高いということでございます。特に、その中の重篤者については、サーバリックスは43回、ガーダシルが33回。例えば小児用肺炎球菌ですと27回という数値になっておりますので、これらの数値に比べて、やはり高いということは問題だと思っております。

ただ、このワクチン接種で防げるところの効果もでございますことから、やはりぜひ希望される方には、接種させていただきたいというふうに考えています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

倉又議員。

17番（倉又 稔君）

今、課長、100万人あたりではなかったですか。それでそういうものに基づいて、市内における子宮頸がんの発生程度はどうだったんですか。それからワクチンをもし接種しなかったとしたら、子宮頸がんによって市内では何人の人間が亡くなる可能性があったのか、そういうものをちゃんと調査しましたか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

岩崎健康増進課長。〔健康増進課長 岩崎良之君登壇〕

健康増進課長（岩崎良之君）

もし100万人といいましたら、100万回です、訂正させていただきます。100万回当たり43回と、そういう形です。パーセントにしますと0.004とか、そういう数字になりますので、100万回当たりを予防接種の場合は出させていただきます。

ただ、子宮頸がんでは亡くなっている方ということでございますが、過去3年ほどを今みますと、大体1人から3人ほどの方が、子宮頸がんでは亡くなっております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

倉又議員。

17番（倉又 稔君）

ワクチンの接種の副反応として、世界各地から奇形児出産の報告もあります。ワクチン接種後五、六年は、出産を控えてほしいという意見もあります。接種後の重篤副反応だけでなく、妊娠、胎児などへの影響を考えたとき、ワクチン接種後数年、または十数年を必要としなければわからないことじゃないかなと私は思いますけどね、その生殖現象に対する影響が表面化するのはいずれからであ

って、薬害エイズのような深刻な社会問題になる可能性は十分に考えられると思いますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

岩崎健康増進課長。〔健康増進課長 岩崎良之君登壇〕

健康増進課長（岩崎良之君）

接種後の子どもへの影響という形で今のご意見だと思いましたが、その辺については、実際そういう形の報告例はございません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

倉又議員。

17番（倉又 稔君）

だから数年後でって言ってるじゃないですか。今、報告あるわけないがね、今、接種したばかりで。じゃあ小学生、高校1年生に接種させて、すぐ報告出せて言いますか、妊娠したかって聞くのかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

岩崎健康増進課長。〔健康増進課長 岩崎良之君登壇〕

健康増進課長（岩崎良之君）

先ほどこの薬につきましては、海外でつくられているということで、海外のほうでは、欧米のほうでは、さきに接種されておりますし、そういう形の中では今そういう影響という報告は、私のほうではまだ聞いたことがございません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

倉又議員。

17番（倉又 稔君）

もし聞いたことがなかったら、もう一遍調べ直してください。

市は任意の接種であった、ことし3月までの対象者、個々の接種者の名前を把握しておりますかどうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

岩崎健康増進課長。〔健康増進課長 岩崎良之君登壇〕

健康増進課長（岩崎良之君）

接種された方は、こちらのほうで把握しておりますし、翌年以降その未接種の方には、やはりご案内を出ささせていただいております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

倉又議員。

17番（倉又 稔君）

現在あらわれてない重篤副反応だけでなく、不幸にも市民に生殖現象の影響が例えば出た場合、市として接種者の氏名を把握しているとのことですから、市としての責任のとり方等を、今から考えておく必要があるんじゃないですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

岩崎健康増進課長。〔健康増進課長 岩崎良之君登壇〕

健康増進課長（岩崎良之君）

重度ではございませんが副反応ということで、平成23年に1名の方が接種後、失神をされました。その後、すぐ意識を取り戻されまして、その後、2回、3回と接種されて、今現在もやはり後遺症はないというふうに聞いております。そのような形で接種によって何かあれば、うちのほうでも情報をいただいておりますし、その後について、 magariサーチをさせていただいております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

倉又議員。

17番（倉又 稔君）

厚生労働省の矢島健康局長は、HPVワクチン・サーバリックスで効果があるのは16型と18型だけで、日本女性の18歳から85歳までの16型感染率が0.5%、18型の感染率が0.2%、計0.7%とっております。このうち自然排出されない1割が感染持続するとして0.07%、そのうち、がんを発展するはその1割と言われておりますので、全体の0.07%、実際に効果があるのは10万人に7人が救われるだろうと言われてます。この数字を聞いたことありませんか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

岩崎健康増進課長。〔健康増進課長 岩崎良之君登壇〕

健康増進課長（岩崎良之君）

今ほど議員がおっしゃった数字については、聞いたことはございません。やはり私どもは先ほど言いましたように把握しているのは、基本的には16・18型が約60%、がんにかかわるという形の数字でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

倉又議員。

17番（倉又 稔君）

あなた方は、これ接種させるのに、あまりにも情報を取らなさ過ぎる。これは厚生労働省の健康局長が話しているんですよ。そういうものをちゃんと調べてないということは、どういうことなんですか。

それで、ことしの3月13日に行われた厚生労働省のワクチン副反応検討会の資料では、HPVワクチン・サーバリックスの接種者が273万人、そのうち重篤副反応が785件、これは10万

人に28.75人が重篤副反応となっております。これに基づいて東京の中央区議会議員で青木かの議員は、ワクチン接種により10万人に7人を救える反面、28.75人が重篤反応の危険にさらされていると述べております。重篤副反応は数年後、十数年後、まだふえる可能性があります。HPVは、推奨するからといって、また、国が支援するからといって、他の自治体が行っているからといって、安易にワクチン接種を行うべきでないと思います。今すぐ中止すべきではありませんか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

岩崎健康増進課長。〔健康増進課長 岩崎良之君登壇〕

健康増進課長（岩崎良之君）

子宮頸がん予防ワクチンにつきましては、先ほど申しましたようにHPVは発生の約90%にかかわっているという中の約6割近くを、このワクチン接種によって感染を予防できるという効果がございますことから、やはり希望者には、このワクチン接種の道を残したいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

倉又議員。

17番（倉又 稔君）

もう少し厚生労働省や何かの資料だとか情報を取り寄せてくださいよ。

今回、議長の許しを得て配付した「子宮頸がん予防ワクチンの接種を受ける皆様へ」、この説明書を見させてもらって、ちょっと説明させてもらいますけども、この説明書というのは何のためにつくられて、何を承知させようとしてるんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

岩崎健康増進課長。〔健康増進課長 岩崎良之君登壇〕

健康増進課長（岩崎良之君）

市のほうでは先ほど言いました子宮頸がん予防ワクチンについて、その感染予防等もでございますことから、その接種について父兄の皆様にご案内をさせていただく中で、実際、説明会等を開催させていただいております。説明会では、こういうA3の2つ折りの「子宮頸がん予防ワクチン接種」とか、あとこういう形で小冊子を説明させていただく中で、父兄の皆様にご相談をさせていただいております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

倉又議員。

17番（倉又 稔君）

じゃあこれは説明会で皆さんに渡すわけですか、この説明書を説明しながら。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

岩崎健康増進課長。〔健康増進課長 岩崎良之君登壇〕

健康増進課長（岩崎良之君）

ワクチンにつきましては副反応もございますし、その副反応が起きた場合の対応等もございますし、そういうことも含めて説明をさせていただいておりますし、あと糸病の産婦人科医から、このワクチンについては説明をさせていただいたりしながら、また質問にもお答えさせていただいております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

倉又議員。

17番（倉又 稔君）

私はそういうことを聞いとるんじゃないんだよ。この説明書をどのようにして皆さんに、対象者に渡しているのかと聞いているんですよ。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

岩崎健康増進課長。〔健康増進課長 岩崎良之君登壇〕

健康増進課長（岩崎良之君）

先ほど市長から説明がございましたように、年度当初に対象者の皆様の保護者へ郵送させていただいております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

倉又議員。

17番（倉又 稔君）

これ郵送して、このまま見てわかりますか。いや、私、この内容について二、三質問するけども、あんた方どうやって答えるか、ちょっと聞かせてください。

まず、ここに子宮頸がんはこんな病気って書いてありますわね、子宮頸がんは乳がんに次いで、若い女性に2番目に多いがんです。その中で若い女性、20歳から39歳にかかるがんの中では乳がんに次いで多く、女性の100人に1人が生涯のいずれかの時点で、子宮頸がんにかかると言われてます。年間約9,000人近くの方が子宮頸がんにかかり、2,700人もの方が亡くなっています。

これを読んで、年間20歳から39歳の方が、2,700人死んでるけどというような感覚でとれないですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

岩崎健康増進課長。〔健康増進課長 岩崎良之君登壇〕

健康増進課長（岩崎良之君）

おっしゃったように若い方が、今、亡くなっているような形で捉えられるかもしれませんが、実際にはやはり特に亡くなる方は、高齢の方が多いのが実情でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

倉又議員。

17番（倉又 稔君）

そしたら、こんなあんたら郵送するだけじゃなくて、ちゃんと説明しなきゃわかりません。これで20歳から39歳の人は何人死んでるか読み取れますか、何人亡くなっているんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

岩崎健康増進課長。

暫時休憩します。

午前10時35分 休憩

午前10時35分 開議

議長（樋口英一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

岩崎健康増進課長。〔健康増進課長 岩崎良之君登壇〕

健康増進課長（岩崎良之君）

すみません。死亡者数については把握しておりませんが、罹患者数につきましては、20代の方で約2,500人、30代で約6,600人、40代で約4,800人、50代で約2,600人、60代で約1,900人、あと70代で約1,300人というふうな形になっています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

倉又議員。

17番（倉又 稔君）

こういうものを渡すとしたら、やっぱりそれぐらいのことを調べて、読んでみて疑問だと思ったら、わからなかったら厚労省に聞きゃいいじゃないですか。

私の資料は少し古いですけどね、平成21年の全国子宮頸がん年齢別死亡者数、これを見ますと、子宮頸がんによる全国の死亡者数が2,423人、そのうち20歳から29歳の20歳代が24人、30歳から39歳の30歳代が166人、合計で20歳から39歳までが190人となっております。これは子宮頸がんの死亡全体の7.84%です。

ちなみに40歳代が347人、50歳代が451人、60歳代が488人、70歳代が449人、80歳、90歳とありますけども、100歳以上でも2人の人が亡くなっております。一番多かったのが60歳代の488人、これが全体の20.14%を占めております。この説明書では、そんなこともわかりません。20歳から39歳の人で2,700人亡くなっているように読み取れるわけでしょう。こんな不親切なものを、ただ郵送しただけなんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

岩崎健康増進課長。〔健康増進課長 岩崎良之君登壇〕

健康増進課長（岩崎良之君）

今、議員さんがおっしゃったように、実際、感染してから発症するまでに、やはり10年以上という長い年月がかかりますことから、若いときに感染しても実際表に出てくるのが、やはり40代、50代という形のことが考えられますので、その辺については今言った説明文書についても、わかるような形に直させていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

倉又議員。

17番（倉又 稔君）

厚生労働省が発行したからといって、そのままを郵送するんじゃなくて、あなた方のほうでちゃんと検証して、本当に見た人がわかるかどうかという確認をしながら郵送しなきゃわかりませんか。

この一番下に何と書いてありますか。ここに子宮頸がん予防ワクチンは新しいワクチンのため、子宮頸がんそのものを予防する効果は、まだ証明されておりません。小さい字で書いてあるんです。これは一番最初に、大きな字で書くべきじゃないですか。そういうものをおかしいんじゃないかって、国に対してでも言うのが当然の話じゃないですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

岩崎健康増進課長。〔健康増進課長 岩崎良之君登壇〕

健康増進課長（岩崎良之君）

このワクチン自体が確かに新しいワクチンでございまして、先ほどちょっと言いましたが、実際、感染してから発症するまで、やはり10年以上の長い年月がかかることから、まだ直接がんとの因果関係については、まだ証明できないということで、今現在のところ、ウイルス感染の予防という形での説明にさせていただいております。その辺については今言ったように、適切な形に直したいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

倉又議員。

17番（倉又 稔君）

最初の答弁で、もし重篤の副反応によって被害が出た場合の責任はどうするのかと言ったら、予防接種法に基づいてと、そういう答弁だね。予防接種法に基づいての補償というのは、どういうことなんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

岩崎健康増進課長。〔健康増進課長 岩崎良之君登壇〕

健康増進課長（岩崎良之君）

予防接種法に基づく補償というのは、例えば通院治療費等、また障害が残ればその年金等という形のもので、予防接種法に基づく補償等になります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

倉又議員。

17番（倉又 稔君）

私はね、そういうことを聞いとるんじゃないんだよ。副反応がワクチン接種による因果関係があるかどうかというのを、まず確認されるわけでしょう。因果関係なんて、なかなか認められんでしょう、あの薬害エイズに見られるように、そういうことを聞いとるんだよ。

だから薬害エイズのように、なかなか因果関係が認められなかったり、ある程度はわかっても認めなかったときは、どうやってやるんだということを聞いとるんですよ。最終的には、薬害エイズみたいな判決になるわけでしょう。訴訟になるわけですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

岩崎健康増進課長。〔健康増進課長 岩崎良之君登壇〕

健康増進課長（岩崎良之君）

議員がおっしゃったように、今の予防接種法による補償につきましては、実際、被害に遭われた方が市に申請されまして、そのときにいろいろ医者からの証明をいただく中で、都道府県経由で厚生労働省へ上げる中で、国のほうでその疾病障害認定審査会というのがございまして、そこで審査をしてから、それについては補償という形になりますので、実際、そういう形のものになっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

倉又議員。

17番（倉又 稔君）

だから、なかなか因果関係というのは、国は認めないよということを言ってるんですよ。じゃあどうやって救われるんですか、そういうことを言ってるんですよ。

それでこの説明書に関して一番最後になりますけど、これもまた一番最後の小さい字で、子宮頸がん予防ワクチンは、子宮頸がんの原因となるヒトパピローマウイルス、HPVに予防効果があるわけではありませんって書いてあるんです、小さい字で。こんなものを国から来たからって、ほいほいと郵送することがおかしいだろうと聞いとるんです。どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

岩崎健康増進課長。〔健康増進課長 岩崎良之君登壇〕

健康増進課長（岩崎良之君）

予防ワクチンにつきましては、先ほども言いましたように基本的にはサーバリックスが16・18型で、ガーダシルが4つの型ということになっておりまして、全てのウイルスに効くわけではございませんし、その辺の表記について注意していきたいと思えます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

倉又議員。

17番（倉又 稔君）

子宮頸がん予防ワクチンが、例えば100%予防効果があると仮定して、じゃあこれは永年持続するわけですか。それとも数年で、これは持続がなくなるわけですか。その辺どうなんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

岩崎健康増進課長。〔健康増進課長 岩崎良之君登壇〕

健康増進課長（岩崎良之君）

基本的には、約20年近くの効果と言われておりますが、先ほど言いましたように、あくまでも新薬ですので、そこまでのまだ追跡調査については途中でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

倉又議員。

17番（倉又 稔君）

だから追跡調査もできないようなワクチンを、危険性のあるようなものを、ほいほいと勧められるのかと言うとるんですよ、それはいいです。

教育のほうへちょっといきます。

小学校高学年や中学校では、どのような性教育を行っているんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

池田子ども教育課長。〔教育委員会子ども教育課長 池田 修君登壇〕

教育委員会子ども教育課長（池田 修君）

お答えします。

まず、小・中学校では道德の時間に異性の理解とか、そういった点でのことで相手を思いやる、自分も大事にするということを勉強します。

そのほか具体的なものとしましては、保健体育で体のつくりであるとか、あるいは生殖等について学びます。

また、保健の時間以外では、家庭科の保育等では、若干性教育とは離れますが、妊娠、出産の後の保育、そういうものについて学んでおります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

倉又議員。

17番（倉又 稔君）

今のことを聞く限りでは、どの程度、どんなことを教えるかさっぱりわからない。じゃあいいですわ。小学校では6年から高校1年までに子宮頸がん予防ワクチンを勧めるのは、どうしてなんで

すか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

池田こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 池田 修君登壇〕

教育委員会こども教育課長（池田 修君）

お答えします。

学校では性感染症の予防の一環ということで、いろいろH I V、あるいはクラミジア、あるいは子宮頸がん等について話をします。特に、子宮頸がん用のワクチンについて、軽くは触れると思いますが、それについてどうこうということについては、詳しくは触れておりません。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

倉又議員。

17番（倉又 稔君）

H P Vは性行為により感染するため、性経験前に接種させるということでしょう。いいかね、H P Vを回避するのは、例えばインフルエンザのように、ワクチンの力を借りなければ防ぐことができないというわけじゃないんです。これは性行為をしなければ絶対に感染しない、人為的に防げるもんなんです。これをどのように教育しているのか、H P V、この接種に関して教育したのか、皆さんに知らせたのか、その辺をお聞きしているんです。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

池田こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 池田 修君登壇〕

教育委員会こども教育課長（池田 修君）

お答えします。

子宮頸がんについては、学校では子どもたちの相手を思いやるとか、そういう道徳の授業とともに、特に学校保健委員会を中心としまして、この学校保健委員会は教職員、あるいは保護者、P T Aの役員、あるいは校医、あるいは関係機関等で作ってる組織なんです。この組織の活動の1つとしまして性についても学習します。そういったところで取り扱ったり、市としましてはこども課の中の親子健康課が正しい性教育普及事業の一環として、子宮頸がんに限らずいろんなものを予防するにはどうしたらいいのか、その1つに避妊という方法もありますし、今、議員が御指摘のように性交渉がなければ、それが感染しないというような事実もあるんですが、そういったものについては道徳とかいろんなものを総合的に、子どもたちに正しい知識として与えることによって、自分が正しい判断をし、よりよい行動ができるような、そんなトータル教育活動の中で指導しております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

倉又議員。

17番（倉又 稔君）

今までの答弁だと、私にはさっぱりわからん答弁だよ。具体的に、どうやって教育するかで聞いとるのに、抽象的なことを言ってるかね。皆さんわかると思うかね、この答弁で。そんなもんは。まあいいですわ。

俺に言わせれば小学校の6年生から接種させるということは、コンドームやピルを支給するから、妊娠の心配はもうありません。どうぞ自由に遊んでくださいと言ってるようなもんですよ。これは性道徳をもう放棄して、中高生の性行為を後押ししてるようなもんじゃないですか。それを具体的に、どうやって教えてるんかと聞いとるんですよ。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

池田こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 池田 修君登壇〕

教育委員会こども教育課長（池田 修君）

お答えします。

今のご質問については、主に保健体育の時間の中で学習します。性交渉の有無ということについては、性教育は人間の根源にかかわることですので非常に難しい点でありますし、プライバシーの点もありますが、子どもたちが将来よりよく生きていくということで、保健体育の中に実際の生殖というような視点、それからその生殖後の出産、あるいは育児。そういう視点等で、保健体育の時間を中心に、それぞれ男女の体のつくりとか、それから妊娠・出産、さらにはそれにかかわるいろんな性感染症の予防等の学習の中を通じて勉強しております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

倉又議員。

17番（倉又 稔君）

先ほどからお聞きしておりますと、例えば道徳の時間、相手の人を思いやる、別に悪いことじゃないです。じゃあ例えば親とか年上の人を敬うとか、悪いことっていうのはいっぱいありますけどね、例えば弱い者をいじめることはしないと、人の物をとったりしてはいけないよとか、そういうことの基本的なことを、じゃあ教えてないんですか、思いやる気持ちだけで。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

池田こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 池田 修君登壇〕

教育委員会こども教育課長（池田 修君）

道徳教育の中では、今、ご指摘のようないろんなことで子どもたちは学びます。私が先ほど申し上げたのは異性の理解という、そういう視点で自分を大事にし、また相手も大切にすると、そういう視点で道徳では子どもたちは学ぶというふうに説明させていただきます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

倉又議員。

17番（倉又 稔君）

もう小学校の高学年、それから中学生ぐらいになれば、これはもう遅いことですが、やはり子どもの教育のときは、初めは型にはめてもいいと思うんですね。我々も子どもが柔道を始めるときは初めは型から始める、形をつくって。形ができて自分の個性だとか自由というものを、自由に自分のものに合ったように。だから、この色は赤い色ですよって全国統一に、赤だから赤と教えるから赤なんでしょう。黒い色を初めから赤と教えれば、黒を見りゃ赤と言います。1つの型にはめた中で、そこから始めていかなくちゃだめなんじゃないですか。そういう教育というのは、もう高学年はいいですけども、小さい子どもたち。

小さい子どもにも個性はありますし、よい個性も悪い個性もいっぱいあります。確かにいい個性もあるけども、悪い個性をいろいろ修正して、1つの型にはめて、そして修正するのがしつけじゃないんですか。就学前にしつけ、それがしっかりしてないから、中学生、高校生になってこれは悪いよって言ったって、誰がおまえ言うこと聞きますか。最初に、その型にはめなくちゃだめだと思いますけども、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

池田こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 池田 修君登壇〕

教育委員会こども教育課長（池田 修君）

お答えします。

ご指摘のように、本当に基本的なことについては、これは善悪の判断をしっかりと小さい時期に教えることが大事かと思えます。この性教育の点についても、若干そういうところもあると思いますが、あくまでも子どもたちに、あふれる情報の中から正しい情報をつかむとか、正しい情報をしっかり子どもに教え、そこから自分で判断し、よりよい行動をしていくという、そういう視点での教育は、今、性教育ではなされています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

倉又議員。

17番（倉又 稔君）

正しい情報と言いますが、情報なんていうのは、今は大人の我々よりも子どものほうがいっぱい持ってるんです。それをどれが正しいか、どれが正しくないかというのは、なかなか修正できるほど、まだ精神的に成長してないから、我々が選んでやるしかないんじゃないですか。今はもうインターネットやスマートフォンなどで、我々以上に情報を持っていますよ、下手すると。ただ、それを拾い上げるのか捨てるのかという、この判断がなかなかできない時代なんですよ。

本来、しつけというのは家庭教育でやるべきもんだし、そういう面で学校に全てを押しつけるのは、やっぱり酷だと思うんですけど、家庭教育でしつけをする能力がなければ、もう学校で担うしかないんです。戦後の教育が結局、今の親を育てたんだから、家庭教育のない親を育てたのは、教育者であるあなたたちなんですよ、違いますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

池田こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 池田 修君登壇〕

教育委員会こども教育課長（池田 修君）

お答えします。

家庭教育という点では、本当に自分自身も親という立場ですし、教員という立場もありましたので、ご指摘のとおりだと思います。

この性教育についても本当はもっと家庭でも、ちっちゃなころから正しい知識とか、いろんなあり方を教えるべきなんです、なかなかうまくいってないという現実があると思います。

学校としましては学校保健委員会等で保護者からも来てもらって、子どもと一緒に性教育について学ぶ場を設けまして、そういう場での話題を家庭に持ち帰って、いろんな話をしてもらおうというきっかけづくりになればということで、保護者も何とか性教育について家庭で、そういった子どもとの話し合いの中で子どもに大切なものを教えていく、そのような形ができればということで、各学校で取り組んでおります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

倉又議員。

17番（倉又 稔君）

日本人が最も大切にしてきた文化は恥の文化です。今、恥を売り物にして笑いを誘っているテレビ番組が多過ぎます、くそおもしろくないような。大切な電波を使って恥の文化を一方向的に破壊している、こういう時代だからこそ、恥の文化を取り戻す教育は大切なんじゃないですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

池田こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 池田 修君登壇〕

教育委員会こども教育課長（池田 修君）

お答えします。

今、ご指摘のように恥の文化、罪の文化という点では、日本は恥の文化を大事にしながらここまでできたわけですが、今の若者に限らず我々は、少しそういった点では、もっと恥ずかしいとか、おてんとうさまに見られて恥じるようなことはしないと、そういったところは、ちょっとずつ意識が薄くなっているのも事実かなと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

倉又議員。

17番（倉又 稔君）

それを取り戻すにはどういう教育を、道徳教育をしていかななくてはならないですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

池田こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 池田 修君登壇〕

教育委員会こども教育課長（池田 修君）

道徳の主題とか項目の中でいろんなものを扱うわけですが、そういったものをもとに子どもたちにやっぱり考えさせて、自分で判断するような、そういう教育を進めていく必要があると思いますし、恥ということでは本当にマスコミ等で、そんなことはとても世の中にあってはならないようなことが平気で行われていたりとか、そういうことが世の中の情報として上がってきます。そういったものが上がったときにタイムリーに学級担任等がいろんな指導をすることが、そういったものをちょっとでも子どもたちのいい人間性に役立てることができるんじゃないかと、そんなふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

倉又議員。

17番（倉又 稔君）

今でもマスメディアでも少し話題になっておりますけども、今はやりのツイッターだとかラインによっていろんな映像が送られてきて、恥を映像にして皆さんに出して、今、社会問題になっているようなのは、ほとんどそうじゃないですか。当たり前だと思ってるんですよ、当たり前だと思う教育をしてきたんですよ。だから50年、60年もかかって、そういう恥がなくなってきた教育をしてきたんだから、また40年、50年をかけて修正しなくちゃならないと思います。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

池田こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 池田 修君登壇〕

教育委員会こども教育課長（池田 修君）

お答えします。

ご指摘のように、これは一朝一夕にいく問題ではありませんので、我々教職員、あるいは行政としましても、今ご指摘のあったような子どもたちの健全育成という点で、日本人のかつて持っていた恥ということに対する、恥じるぐらいなら死ぬとまでは言いませんが、そういうような厳しい思いみたいなものをいい伝統として、受け継いでいく場面も必要だというふうに思っておりますので、教育でも今そっちのほうに、ちょっとずつ向くところもあると考えます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

倉又議員。

17番（倉又 稔君）

ヒトパピローマウイルス・HPVの予防ワクチンは、あくまでもHPV感染予防ワクチンであって、子宮頸がんの予防ワクチンではありません。サーバリックスは、感染者には治療効果はないと

うたっております。ワクチンの接種前に既に感染しているHPVを排除したり、既に発症している子宮頸がんや前がん病変の進行をおくらせたり、治療することはありません。また、初期の子宮頸がんは適切な治療が行われれば、治癒率はおおむね100%であると日本産婦人科腫瘍学会のガイドラインに示されております。そのような意味で、糸魚川市は即時に子宮頸がん予防ワクチンの接種を中止すべきです。

また、性教育は性を通じて人格形成を目指すとともに、生殖と人間の真の健康を考える教育の一環として、正しい性知識を教え、性欲にもあそばれることなく、強い抑制の心を持って生きることが、ワクチンをはるかに超える感染予防手段であります。それを教えるのが学校での性教育であり、私たち大人の義務であるということを申し上げて、私の一般質問を終わります。

議長（樋口英一君）

以上で、倉又議員の質問が終わりました。

関連質問ございますか。

〔「なし」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

関連質問なしと認めます。

11時10分まで暫時休憩をいたします。

午前10時59分 休憩

+

午前11時10分 開議

+

議長（樋口英一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、五十嵐健一郎議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

五十嵐議員。〔19番 五十嵐健一郎君登壇〕

19番（五十嵐健一郎君）

おはようございます。

奴奈川クラブの五十嵐健一郎です。

通告書に基づき一般質問をさせていただきます。

1、定住支援策について。

昨年10月、建設産業常任委員会の市外調査で行きました長野県飯田市の地域活性化プログラム2012の中で、飯田市長の考えでは、行政がつくる10年間の計画では時代のニーズと速さに応えられないため、この地域経済活性化プログラムは非常に細やかな経済波及分析を行い、PDCAサイクルにより毎年更新して事業を進めているものであります。

そこで、今年度の2013を見ますと、重点プロジェクト6から1へと重点戦略に昇進されておりました。その中身は人材誘導、人材育成であり、人材誘導の精度を高める事業展開、地域、産業、

人材の誘導育成の総合的展開の検討促進などでありました。スピード感があり、毎年計画が更新されているなど、糸魚川市でも学ぶ点は数多いようであります。

そこで、以下の点についてお伺いします。

- (1) 若者定住促進助成事業の導入。
- (2) 企業振興奨励金と用地取得・雇用促進助成金等の支援。
- (3) 農林水産業・ものづくり技づくり等の後継者支援。
- (4) 福祉・教育・観光等と連携した都市と農山漁村の共生・対流。
- (5) ファンドの活用。

まちづくり市民事業。

医療・介護施設。

農林漁業成長産業化ファンドの活用。

- (6) 就労支援事業・障がい者雇用の拡大と軽度・中等度難聴児の補聴器助成。
- (7) 芸術家等誘致や現代アート等の芸術祭開催による活性化策。

2、交流人口拡大と人口維持対策について。

日本各地でリゾートを運営する企業へ飛躍した星野リゾート・星野社長の打ち出す経営戦略は、時として常識破りに見える。アルツ磐梯のスキー場でレストランのカレーライスに、おいしさ保証をつけ、おいしくなかったら全額返金しますというサービスであったり、旅館で働いたことがない社員を、いきなり高級旅館の総支配人に抜てきしたりする、また、顧客をつかむには満足させるのでは不十分で、熱狂的なファンをつくる必要がある。1%ずつでもいいので、目指す目標に向かって一貫性を持って進み続けるなど、事業展開の背後には常に教科書が存在しているようであります。糸魚川市の行政経営にも、見習う点があります。

そこで、以下の点についてお伺いします。

- (1) 協働組織「チーム糸魚川」の発足について。

発足の時期・組織体制。

具体的施策の実施方法及び予算規模。

- (2) 糸魚川ならではのストーリー探し。
- (3) 糸魚川ブランド戦略の現状と課題及び今後について。
- (4) ジオパークの顧客満足とさらなるマネジメント課題。

情報発信の強化（Wi-Fi、スマホ、YouTube、アプリなどの対応）

アジアへのシフト。

高校・大学・企業との連携・融合。

ジオパークとのコラボ・合体・相乗効果による活性化策。

- (5) 糸魚川市独自の休日制定について。

（1月15日、4月10日、4月24日等）であります。

以上で1回目の質問とさせていただきます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

五十嵐議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、現在、ふるさと就職促進事業や医療技術者の修学資金貸与事業などを実施し、若者の地元就職定住につながる事業を展開いたしております。

2点につきましては、企業立地促進条例による課税免除や企業用地取得補助金、雇用促進事業補助金など等により支援を行っております。

3点目につきましては、各産業分野で無利子貸し付けや補助金等で後継者の支援を行っております。

4点目につきましては、体験教育旅行として聖学院中学校農村体験学習では人的交流のほか、米をはじめとする農産物等の流通も継続されております。

5点につきましては、市民や法人から広く資金調達することができるなどメリットがある一方、集まる資金量に対して募集コストや運用コストがかさむことなど、出資が集まりますが、不確定なデメリットが考えられますことから、今後、活用の可能性について調査研究してまいります。

6点目の就労支援事業、障害者雇用の拡大につきましては、今年4月に就労継続支援A型事業所が新設され、スタートしたところであります。

また、難聴児補聴器購入費助成につきましては、保坂議員のご質問にお答えしたとおりでありまして、助成を行うことといたしております。

7点目につきましては、現在、市民と行政が一緒になって文化を楽しむ機運が高まっておるわけでございますので、検討いたしておりますので、ご了解いただきたいと思いますと思っております。

以上、7点申し上げましたが、若者の定住促進に向けた新たな施策を、今後、検討してまいりたいと考えております。

2番目の1点目につきましては、現在、年内の発足に向けて参加団体、活動内容等について検討を進めているところであります。

2点目につきましては、ヒスイ文化、奴奈川姫伝説、相馬御風などの地域の宝をジオパークのストーリーといたしまして発信し、交流人口の拡大につなげてまいります。

3点目につきましては、各事業主体において、ヒスイ、奴奈川姫、産物をモチーフとしたブランド事例や、ブラック番長の商標など成功事例もあり、今後はジオをキーワードとする統一的なブランド戦略を研究してまいります。

4点目の1つ目につきましては、糸魚川ジオパークのホームページにおいて、スマートフォンへの対応やYouTube映像の配信、ツイッター、フェイスブックなどによる取り組みを進めております。

2つ目につきましては、姉妹ジオパークであります香港を軸に交流人口の拡大を図ってまいりたいと考えております。

3つ目につきましては、近隣の小・中・高への情報提供や、上越教育大学等との連携を行っておりますし、また、モンベルとも連携を行っております。

4つ目につきましては、日本ジオパークネットワークを通じ、ジオパークの知名度の向上などを図りながら、糸魚川ジオパークの情報発信に努めております。

5点目につきましては、伝統行事を地域で維持することは交流人口拡大のためにも大切であるこ

とと考えておりました、今後、どのような対応が可能か研究してまいりたいと考えております。

以上、ご質問にお答えいたしました、再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もございますので、よろしく願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

19番（五十嵐健一郎君）

ありがとうございました。

まず昨日、渡辺議員にお答えしたふるさと市民制度ですか、これも調査研究するというので、私の考えは、いろいろ述べられておりましたふるさと市民制度をもとに、全国事例を調査研究すると。渡辺議員がかなり前からこの提案をしておいたり、皆さんもそういう形で提案してきたかと思うんですが、ちょっとやっぱりスピード感が遅いんじゃないかと、こう思ってるんですが、いかなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

昨日のふるさと市民制度につきましては、渡辺議員から22年12月、昨年9月、過去2回ご提案をいただいております。スピードが遅いというご指摘であります。きのうもお答えしておりますように調査研究ということでありますので、できるだけ早い時期での実施に向けた取り組みをしてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

19番（五十嵐健一郎君）

定住と人口拡大、人口維持となれば関連が出てくるので、ちょっとどこへ飛ぶかわかりませんので、覚悟をお願いします。

それで渡辺議員からありましたふるさと市民制度、私の提案はファンドです、ファンド。これでまちづくり市民事業、これでもかなり先進地、いろいろな形でやられる。

その中で北海道の十勝地域で、場所文化フォーラムというのをやられていて、市民が組合員で資金を出資金、新たな地方と都市の交流をやってるそうなので、時と場所と人と食にこだわって、地域生活の中に存在する固有の価値、場所文化を重要な地域資源と位置づける市民グループ、それが場所文化フォーラムだそうです。

そこで1口いろいろな形で、この中では5万円を集めて何人かの組織で、いろいろな形で場所文化のレストランとか、それは東京で地元のものをいろいろ使ったりしていただいて、十勝以外の地域との交流、ツアーとか。そこも山梨県の甲州勝沼町とかいろいろな形で交流、宮崎県、富山にもあるそうで、そういう形でやるとるそうなんです。

そこで本当にいろいろな形もあるんですが、そういうのも含めてチーム糸魚川になるかどうか

かりませんけれど、いろいろな形でできると思うんですが、その辺の考えはどうなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

そのファンド的な捉え方で進められないか。当然いろんなことが考えられるわけでございまして、現実に行政がかかわらなくても、以前、また行政もかかわってる中で、そういったことも行われてきとるわけでございまして、内容によって、いろんなもののバージョンが考えられるわけでございしますので、私はこれからの有用な、また有効な制度だと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

19番（五十嵐健一郎君）

まちづくり市民事業、それも含めてファンドの中で、ヘルスケアマネジメントパートナーズ株式会社が行っているトリニティヘルスケアファンド、これも医療と介護施設も含めてファンドをやっているんですが、ちょうど今行われようとしている農林水産業のファンドですね。これ国も示されておるんですが、6次産業化の事業自治体に対してファンドをやる。出資会社も各会社も銀行もありますが、自治体でも行われてるということで、この流れがかなり農林水産業だけでなく、介護・医療のほうにも回っていくんじゃないかと思えますし、先ほどありましたまちづくり市民事業にも伝わっていくんじゃないかと、こう思っておるんですが、その流れにどう糸魚川市としては立ち向かっていこうとしているのか、ちょっとわからない面もあるんですが、考え方と方向性を教えていただきたいと思えます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

市民ファンドの捉え方も、先進の自治体もいろいろな形で取り組みがされておりますけれど、私のほうから各分野の個別のものは別として総論で申し上げますと、市民とのいわゆる協働のまちづくり手法の1つだというふうな位置づけで考えております。

ただ、果たしてファンド事業がいいのかどうかという部分、既存の例えばきのうも出ておりますふるさと納税制度とか、あるいはまた事業でいえばまちづくりパワーアップとか、そういった既存事業で市民活動を応援するという、それは補助金でありますけれども、そういった取り組みとか、あるいはまたふるさと納税をいただいて、その資金を市民活動に使うとかっていう部分もありますので、その辺のファンド導入に当たっては、既存事業とのすり合わせというのが必要になると思えますけれども、あくまでもファンドは農林漁業においても医療・介護、あるいはまた特に市民活動という部分においては、まちづくりの1つの手法というふうに考えていきたいというふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

19番（五十嵐健一郎君）

ぜひ渡辺議員が提案された、ふるさと市民制度とかいろいろな形で行われているファンドも、いろいろな形で今度は見えてくる中でどう取り組もうか。やっぱり行財政改革の中で、補助金も削る方向でいかないと、見直しもしていかないとだめなものになってくると思うんで、それを市民だけでなく全国的にファンドを集めるという形が、この十勝地域でございまして、やっぱり本当に市民だけでなく出てる方々、関東・関西糸魚川会とか、奴奈川ネットワークではないんですが、それだけでなく本当の全国的に糸魚川のファンづくりのために、ぜひ必要なことじゃないかと、こう思っておりますので、その辺いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

昨日の渡辺議員のふるさと市民制度とファンドと、やはり延長線上にはあるのかもしれませんが、私は即ファンドには、なかなかいきづらいのではないかなと思っております。我々はやはり糸魚川の情報発信や糸魚川のファンとして捉えていく中で、ふるさと市民制度というのは、非常に今ある程度の数が必要な部分でないかなと。

今、議員ご指摘のようないろいろな課題、問題を解決するためのファンドというのは、また違った観点で捉えていかなくちゃいけないんじゃないかなと捉えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

19番（五十嵐健一郎君）

本当にいろいろな形が出てきてる。石巻ではまちづくり会社、これも会社ですので公募、出資して街角美術館、これもアートとまちづくりを商店街活性化、商店街の中でやられて、コミュニティレストラン、それに共同での建てかえ事業で長屋暮らし、高齢者も含めて高齢者向け優良賃貸住宅制度、これもまちづくりファンドで行われている。

その辺も含めて、ふるさと市民制度は制度としてやっていただきたいんですが、別のやっぱり……。2年前ぐらいですか、静岡の富士市で産業振興センター、これも富士市から委託されて産業振興センターを建てて企業の相談に乗ってるということで、かなりのすごい相談が来てるんですよ。第三セクターではないんですが、その委託された、そういうような形でやっぱり本当の糸魚川市になっていただきたい。やっぱり別角度で見れるような形も必要ではないかと、こう思っておりますし、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今、我々はジオパーク活動を核として、いろいろな事業を展開しとるわけでありますが、しかし、そのみならず私はやはり文化の醸成なり文化の情報発信として、糸魚川だけで展開できるというものではないだろうと思ってますので、逆に糸魚川を情報発信しながら全国展開ができるものも、私はあろうと思っております。これはやはり地道な活動が必要になるんだろうと思うわけですが、やはりそういう方向でいきたい。

これはジオパークを見てもおわかりのように、糸魚川は1987年にフォッサマグナと地域開発構想というものをつくりながら、現在のジオパークにつなげたわけでございますので、そのように我々といたしましてもいろんな展開はできると思っております。そういうものに対してもチャレンジをするべきだと思っておりますので、それがどういう形でいくか、今、ご指摘のようにファンド体制、資金が必要なものもあるのかもしれませんが、また、そうじゃなくても展開できる部分もあるのかもしれないので、そういった文化でのまたそういう糸魚川を情報発信で、全国展開も我々は考えていかななくてはいけない。糸魚川のみならず、そういう形で捉えていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

19番（五十嵐健一郎君）

ぜひそういう方向でいていただきたい。

それで一番気にしてるのがジオパークだけというか、ジオパークはだめと言っとるんじゃないです。ジオパークだけでなく、その次、その次、重ねていけるような何か、新幹線時代に突入する中で、それが私は足りないと思うんです。

そこをどうプラスしていくか、後のほうにあるコラボしていくか、合体していくか、それがやっぱり必要ではないかと思って提案しとるんです。そういうのが見えてこない、単なる通過地点や、いろいろな形になってくる。それとジオパークが経済活性化に、今のところまだまだ結びついてないと思うんで、ぜひお願いしたいと思うんですが、その辺についていかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

議員のご指摘のところも私は感じておるわけでありまして。しかしながら、今、いろんなご提言をいただきました。今、糸魚川の中でも、いろいろなものが行われてるわけでありまして。しかし、どれも本当に、これが地域の活性化に大きく結びついてるという方向にはいってございません。それを考えたとき、私はチーム糸魚川という1つの考え方を持ったのはそこでございます。要するにチームワークが大事。やっている事柄はみんな悪くない、いいことであるんだけど、市民全域に

広がってないというのは、やはりそれだけしっかりとした愛情や情熱を持った人たちがふえてないというのが、私は原因だろうと思うわけでございます。

ですから事業じゃなくて、その取り組む1つのチームワークといいましょうか、そういったところが我々これから行政も、市民の皆様方にも、また企業の皆様方にもお願いしていかなくちゃいけないところだろうと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

19番（五十嵐健一郎君）

そこでチーム系魚川になるんですが、年内で参加団体とか活動を確認すると、3カ月ぐらい前の6月議会でも、かなりの人が言ったんですが、何も出てきてないんですが、もうはい準備に入って、どういう形になるかというのが本当にきょう楽しみだったんですが、出てないんですが、本気になって考えて、どういう方向に行こうとしているのか、ちょっと見えてこないんですが、どこが主体の課、部で、どういう取り組み方を今やっとするのか、その辺を教えていただきたいし、これが本当の市長がおっしゃってる協働組織のチーム系魚川になってくるんだと思うんですが、それが見えてないと、いろいろ皆さん提案しても何も結びついていかないと思うんです。

先ほど市長も言った本当の活性化、目玉になってないというのが現状だと思うんで、その辺、チーム系魚川の現状を教えていただきたい。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今、いろいろ取り組んでおるのも非常に評価も出とるものや、数字も上がっている部分もあるわけでありまして。しかしながら、もっとやはりそれを進めていきたいということで、私は今ほどの答えて述べさせていただいたように、いかに市民全体が行動できる、また行動していく形が必要なわけございまして、その固まりになるようなことが大事なわけございまして、そのチームワークが醸成する事業を取り組まなくちゃいけないということで、ただ単に、今やっているような事業を新たにつくるということではございません。

そういう形をどのようにしていくか、非常に難しいところでございます。難しいからこそ、またやることにならなくちゃいけないだろうと思うわけでありまして、理解してもらえような方向にまとめるまで、庁内でも検討しながら今進めさせていただいてるわけございまして、まだまだ市民のところには出してございませんが、その辺をどうやっていくか、非常に難しいところで私は捉えておるわけございまして、いましばらく今言ったように、時間をいただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

19番（五十嵐健一郎君）

6月もそうなんです、年内ぐらいに立ち上げる、年内、12月ぐらいまでですか、そうなればどれだけでも早く立ち上げたいと言ってるわけなんです、今の話を聞くと新たにつくるのではなく、また、新たな展開ではなく、市民の固まりの意識の向上なんですかね、その辺、市職員の意識改革ではないですが、市民の意識を変えるために、このチーム系魚川なんです、その辺が具体的にどう出ないとちょっとわからないんですが、今、評価が出て、このチーム系魚川で評価が出て、具体的にどういうことなのか、ちょっと教えていただきたい。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

評価が出てるといのは、ジオパークの活動に取り組んでからの事業でございます。それももっとやはり効果を上げていかなくてはいけないという中でどうするべきか。それをただ、今やっている事業に対して、今の体制だけでいいのかというところが問われるわけでありまして、でありますから、それに対してもっと、やはり行政や市民や企業が一体となって動けるような方向が大事、それにはやはりチームワークだろうと。そのチームワークを醸成するための事業というところが、今まだ具体的にどうなんだと、どういうことをすればいいのかというのは、なかなか難しいところであるわけでありまして、例えばスポーツにしてもチームワークをつくるには、いろんなやり方があるわけでありまして、テクニクとかそういう部分ではなくて、チームワークをどうするかというところが、チーム系魚川の一番大事なところだろうということでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

19番（五十嵐健一郎君）

わかったようでわからんような説明なんです、系魚川地域連合区長会ではチーム系魚川については説明する場をつくりたい。これは年内に固めて、いつ説明の場をつくるんでしょうか、一応めんどですね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

でありますから、年内にそういったところで皆さんにお集まりいただいて、少しスタートできればということで、最終的には、やはり市内全域に広げていきたいというのが考えでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

19番（五十嵐健一郎君）

その具体的にメンバーが、行政、商工会議所、商工会、農協、漁協、観光協会、学校、市民、これと同じような組織で代表者が出て、あんまりかわりばえがしないんじゃないかと思うんですが、ちょっと変化を与えているいろいろな、東京や大阪、また関西とか関東方面に出た方、出て糸魚川に戻ったUターンやU・Jターンの人とかいろいろな形で、女性の意見も聞く場とか、やっぱり何か変化が欲しいと思うんですが、現状のそういう形の団体とか市民だけで構成されるんでしょうか。この構成メンバーがちょっとわからないんですが、教えていただきたい。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

まずは、発足させるための相談をするグループという形であるわけでありまして。今、そのところ言いましたように、最終的には市民全員の皆さんからの理解いただけるようなものにもっていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

19番（五十嵐健一郎君）

わかりました。ぜひすばらしいものをしていただきたいなと、こう思っておりますし、糸魚川を変えられるような組織にしていきたいと思っております。

それで島根県海士町が、本当にいろいろな形で取り上げられているんですが、攻めの戦略ですよ、攻め、島まるごとブランド化による産業振興、島をまるごとなんですよ。そうならば糸魚川まるごとブランド化でいいと思うんです、それで産業振興。ジオパークも24サイトもありますし、糸魚川まるごとブランド化、私はそれでいいと思うんです、その辺も含めて産業振興。

海士町では、株式会社ふるさと海士ですか、それを設立して88人の雇用という、U・Iターンで88名雇用されてるということで、いろいろ牛だとか海、塩づくり。本当にいろいろな形で、よそ者を入れてるらしいんですね。よそ者と言うたらおかしいんですけど、外部人材の登用。地元にいなければ、本当に外部の人材を登用するべきだと思うんですが、その辺も含めて商品開発の研修制度とか、かなりの定住人口をふやしていると思うんですが、こういう考えでいってほしいなと、こう思っているんですが、その辺、定住支援ではどうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（斉藤 孝君）

農林水産業の分野で少しお話をさせていただきますと、きのうの答弁にもございましたけど、糸魚川市の食談会をし、全国的に糸魚川の名前を発信をしたり、また、あるいは糸魚川の食材を新たな販路を見つけるために、そのようなイベントも取り組まさせてもらっております。

1次産業全般の中では、これといったブランド戦略、ブランド化というものは、まだ持ち合わせ

ておりませんけども、1回目の市長の答弁でお話がありましたように、ジオをキーワードとする統一的なブランド戦略を少し考えたいというふうに考えております。

例えばお米であればヒスイ米、糸魚川の杉の普及をというふうなお話で、いろいろとご意見をいただいとるところでありますけども、糸魚川の地形を使いながらのブランド戦略というものも、1つ考える必要があるかなというふうに考えております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

19番（五十嵐健一郎君）

今の答弁だとブランド化による産業振興も含めて、もっとなりわいネットワークを拡大してほしいんですね。今のだと団体が限られているというか、行政がやってるから、入るか入らんか迷っている。そうではなく、いろいろ広げていっていただきたいと思いますし、そういうチャレンジできる企業、団体、そういう小さい中小企業でもいいと思うんで、ぜひそういうチャレンジできるような増加策、その辺も含めて今の企業相談。6次産業化を含めているいろいろな形で、企業がどういう形で、どのくらい相談に来ておりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

なりわいネットワークの部分で少しお話をさせていただきますけども、今、約45団体の加入をいただいております。それから、なりわいネットワークでも今ホームページを立ち上げるべく準備をさせてもらっております。

ネットワークの加入者はどのような情報が欲しいかというものを、加入者全員で情報共有できるような、そんなシステムの中、ホームページを開設しながら、情報の共有をし、マッチングをできたらなというふうに考えるところであります。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

19番（五十嵐健一郎君）

ホームページにも載せる、いろいろな形でやっていただいているんですが、なりわいネットワークに入らないとホームページに載せられない。私は違うと思うんですが、やっぱりきのうも答えていただいている認証制度、認証制度を今度は統一していくということなんで、その辺の時期と、それに載っていけばホームページでもいろいろな形で、この商品だとか載っていけるようにするのか、その辺を教えていただきたい。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（斉藤 孝君）

食という部分で捉えますと、今後、交流人口の拡大ということで、いろいろと議会のほうからのご意見をいただいとるところでございますけども、訪れた方が市内のお店に入ったときに、どのような食材を用いて食べ物等を提供してるかというふうなところが、外から来られた方が一目でわかるような、そんな認証も今検討させてもらってるところでありますし、また、先ほども申し上げましたように農林水産業の部分では、ジオをキーワードとした認証基準も今検討させてもらってる状況でありますので、もう少しお時間をいただきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

19番（五十嵐健一郎君）

その辺の認証の制度ができるめんど、販路開拓で予定だと、なりわいネットワークの事業計画で平成26年、来年ですか、アンテナショップ開設の可否を判断すると。その辺は今はどうなような状況なのかお伺いしたいと思います、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（斉藤 孝君）

なりわいネットワークの活動では、6月議会で補正予算をお認めいただきまして、なりわいの事業を一部市内の企業にお手伝いをしていただくような、その取り組みを6月からさせてもらってるところであります。その委託事業の中には販路の拡大やら、商品開発やら、まさしくマッチングの部分を民間の目線でマッチングしていただけるような、そういうところも考えてるところであります。

それから、なりわいネットワークは24年、25年、26年の3カ年でということで、取り組みをいたしてるところでありますので、アンテナショップにつきましても8月の日本橋におけます糸魚川の食談会も含めながら、アンテナショップを探っていきたいというふうに考えておるところでございます、具体的にどういう箇所、いつごろというふうなものは、今はちょっとお話できるような状況ではありません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

19番（五十嵐健一郎君）

今のアンテナショップは探ると。今のお答えだと、開設の方向でいってるような形で探ってるような雰囲気なんです、その辺が1点と、さっきの認証制度ですね、どの辺のめんどで展開していきたいのか、お伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（斉藤 孝君）

先ほど言いました認証制度につきましては、今年度、糸魚川市農業振興協議会という外郭団体がございますので、その外郭団体では県が入っていたり、あるいは農協が入っていたり、行政が入っていたり、また、漁協も入ったりしておるわけですが、1次産業を取り巻く団体に入っただいて認証制度を今年度、検討事業として掲げておりますので、いましばらくお時間をいただきたいと思っております。

それからアンテナショップにつきましては先ほど申し上げましたように、今調査、探りの状態にあります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

19番（五十嵐健一郎君）

それで昨年と同じく10月に、建設産業常任委員会で徳島県の神山町ですか、この中でサテライトオフィス、IT企業が都会から、本当に田舎なんですよ、そこで空き家を利用しながらIT企業が住みついている。情報発信、パソコンでみんなデータをやって、そこでも仕事、かなりの定住者やそういうのをやっとなんですが、そういう結びついていけるような形で、ここの糸魚川だけでなく全国から、いっぱい空き家もございますし、空き店舗もございますし、そういうところを利用できるような企業とのマッチングを含めてコーディネートは、そういう動きはされているんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（斉藤 孝君）

昨年、建設産業常任委員会の市外調査に私も同行させていただきまして、今、議員お話のサテライトオフィスを見聞をさせていただき、参考とさせてもらってるところでありますけども、それと同じようなものを、今、糸魚川市で検討しとるかといいますと、ちょっと弱いところがあると思います。

ただ、中山間地域における空き家というものが数多くございますので、中山間地域の今後の農林業を考えたときに、そういう空き家を使った農林業の就農等も含めた利活用というものは、検討していく部分も多くあると思っております。

また、外から訪れられた方による地元住民の活性化というものも非常に期待できるところでありますので、そんなところを調査研究していきたいなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

19番（五十嵐健一郎君）

ぜひお願いしたいと思いますし、企業誘致は難しいのはわかっていますけど、既存企業に頑張ってもらって。だけどやっぱり糸魚川に魅力さえあれば、私は小さい企業でも来ると思いますし、ジオ

パークのまち糸魚川、魅力があれば本当に寄ってくるんじゃないんですか。人材もふえてくると思いますし、U・I・Jターンも含めて来ると思うんで、この糸魚川のよさを。やっぱりその情報発信が私はまだ足りないと思うんですが、その辺を含めて情報発信。

今、ユーチューブにちょっと載ったりしたり、ホームページもよくなっているんですが、やっぱり日本一の教育じゃないんですが、日本一いいホームページ、ユーチューブもこの24サイトを全部見れるとか、各祭りや、すばらしい食、いろいろな形でユーチューブで料理したのを見せるとか、その辺も含めていかがなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

交流観光課長（藤田年明君）

糸魚川市に来ていただくための情報発信ということで、いろんな形で取り組んでおります。

ことしについてはジオパーク大使である川合俊一さんを観光案内人としてビデオ撮影、そういったものも短いものを5本ぐらいつくっていきたいというふうに思っております。

そういったものをホームページ等で公開する中で活用してまいりたいと思いますし、1つの情報発信の強化策ということでWi-Fi環境、それについても今いろんな形で、比較的安い料金で実施できるような環境も整っております。単にWi-Fiが使えるというだけじゃなくて、トップページで市の情報発信もできるような、そういう形も出ておりますので、そういったものをなるべく早く取り入れるような形で進めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

19番（五十嵐健一郎君）

ぜひそういう形でやっていただきたいと思います。ビデオ5本、いろんな形でそれが皆さんに伝わるかどうか、市民を含めて全国的に。

アジアへのシフトと書いてあるんですが、今、世界だと思うんですよね。きのうもありましたようにスイスからも来てる、白馬にはオーストリア。オーストリアの人は、かなり糸魚川にも来ておられている。だけどPRしてないんですよね。もっともっと来ていただけるような、ここにはすばらしい食べ物、いろいろな形もある。そういう一人一人、どう糸魚川をアピールするかだと思うんです。

それで第1回目にもありましたが、星野リゾートの考え方、私、本当は権現荘もスキー場もやっていただきたいんです。星野リゾートに当たってはどうかと思うんです、そのぐらいのやっぱり気持ち。

それはちょっと置いて、星野リゾートのマンツーマンサービス、お客様の1人の情報をどう集めて、その人に対してどうサービスを行うかを蓄積しながら、来ていただいた方にすごいサービスして、またリピーターになっていただく、再訪していただけるような、そういう本当に、今、行政経営にも必要になってくるのではないかと、こう思っているんですが、その考え方で職員が、今の企業じゃないんですが、1企業に対して1職員、係長以上でもいいんですが、足利市でもやってい

るんですが、そういう形をとれないかどうか。

それと、きのうの話じゃないんですが、芸術家を1人当たって誘致するとか、それと同窓会、きょうの新聞にも出てたおててこ舞同窓会の方々、その1幹事に対して1職員、その辺も含めて職員が意識改革するって、その担当制も含めてできんでしょうか、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

私のマニフェストの中でも職員の意識改革を挙げております。これはやはりチーム糸魚川にもつながるわけでございますし、また、今までジオパークの取り組みにおきましても、今、議員ご指摘のように、それに向かって我々は進めてきてるわけでございます。それがやはりもてなしの、人としての接する最大のメリットにつながっていくんだろうと。やはりおいでいただいた方はリピーターになっていただく、今、糸魚川のリピーター率が高いというのは、そういうところだろうと思っております。

確かに食や食材のよさもあるかもしれませんが、人がやはり一番その中で接していく、そのもてなしの接し方が一番大切だということで、今、ガイド協会の中でもその辺を一番重点に置いて、今、取り組んでいただいております。これをまだまだ広げるには市の職員も、また再度、市民の皆様方にもお呼びかけをして、それをさらに広げていくという形で、職員の意識改革を始めさせていただいているものでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

19番（五十嵐健一郎君）

先ほども言いました新幹線1年と7カ月、それでジオパーク。本当にジオパークだけでなく、違う形も必要だと思うし、古畑浩一議員もおっしゃってる、糸魚川ジオパークにタモリを大使にすればいいと。糸魚川のジオパークでなく、日本のジオパーク全体の大使にタモリをお願いしてはどうかと。やっぱりインパクトあるとなれば、本当にあると思うんですが、日本ジオパークの会長として、やっぱりその辺、当たってはいかがなかなと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

確かに1ジオパークだけでは、広がりも活力もなかなか限界があるわけでございますので、日本全体、そしてそれをやることによって、アジア、世界とつながるわけでございますので、そういう協力、または代表というぐらいのイメージの高いいろんな方々の協力、また、その使い方をすることも大事だと捉えておるわけでございますので、十分検討させてもらいたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

19番（五十嵐健一郎君）

ぜひ強くお願いしたいと思います。

やっぱり糸魚川を変えるには何が必要かと。そこになってくれば外部人材も必要ですし、違う団体も来ていただける。来ていただかないと魅力がわかりません。その本当の情報発信も含めて、ブランドの価値を決める要素の中で、知覚品質だそうです。どのように感じていただくか。

感じる、ユーチューブであれいろいろな形で、それを映画化、ドラマ化。今、「あまちゃん」じゃないんですが、ぜひそういう形で。海もありますし、そういうキャスティング、NHKのディレクターとかに当たったらどうかと思うんですが、この辺はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えさせていただきます。

その辺の探り方、また、その辺の方向性についても、我々もやはり大事だと思うわけですが、しかし、ご存じのように、非常に単独でやると巨額な金がかかるわけですので、なるべく資金のかからない中で、効果のいいものはないのかというのは、やはり当然考えなくてはいけないことだと思います。

我々も機会あるごとにテレビ局や、また、マスメディアの中に、いろいろとご挨拶をさせていただいたり、また、そういった糸魚川の情報提供をさせていただいたりもさせていただいております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

19番（五十嵐健一郎君）

強力なトップセールスをお願いして、一般質問を終わらせていただきます。

ありがとうございました。

議長（樋口英一君）

以上で、五十嵐議員の質問が終わりました。

昼食時限のため13時まで休憩いたします。

午後0時06分 休憩

午後1時00分 開議

議長（樋口英一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、古畑浩一議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

古畑議員。〔20番 古畑浩一君登壇〕

20番（古畑浩一君）

奴奈川クラブ、古畑浩一であります。

通告書に従いまして、これより一般質問を行わせていただきます。

1、自然再生エネルギーの活用と実現性について。

原子力発電所の再稼働問題、第3次オイルショックともいえる原油価格の高騰による電気料の値上げなどにより、経済、産業はもちろん、市民生活においても深刻な状況であり、電力の安定供給の一翼として自然再生エネルギー開発が以前にも増して注目を集めています。そこで自然エネルギーの宝庫とも言える糸魚川市での新エネルギー推進計画についてお伺いをいたします。

市内大野区地内で推進している地熱エネルギーを始め、木質バイオマス、太陽光発電、メタンハイドレートなど、市内で開発可能な再生エネルギーについてその実現性と推進体制についてお伺いいたします。

(1) 電気料金の値上げによる経済・市民生活に及ぼす影響と今後の見通し。

(2) 国・県の新エネルギー推進に対する方針。

(3) 市としての新エネルギー開発計画を策定し、ジオエネルギータウン糸魚川として全国発信するお考えはないか。

(4) 国道148号沿線のアルペン村・姫川病院跡地を活用できないか。とりわけ所有者なしのユレイ病院と化した姫川病院跡地をこのまま放置して良いのか大きな疑問と矛盾が残るところであります。市としてのお考えをお聞きいたします。

2、交流人口・定住人口対策について。

米田市長が、3期目の公約として掲げた交流人口増、定住人口維持を目指して、具体的にどのように推進していくのかお尋ねをいたします。

全国的、新潟県においても人口減少数が過去最大を記録し、過疎化に拍車がかかり、より厳しい現状をどう打破するのかお尋ねをいたします。

(1) 広域観光連携の推進について。

越五の国不参加の経緯と北アルプス日本海広域観光連携会議の具体的な内容と行動計画。

日本海と食を活かしたプランニングの推進。

市内海水浴場の整備及び養浜事業及びヒスイ海岸の現状と整備計画について。

(2) 定住人口維持の取り組みについて。

人口動態の推移と将来推計。少子高齢化の影響など、それらをどのように分析検討し対応しようとしているのか。定住人口の維持にはこれまで以上の取り組みが必要と思われるが、具体的な行動計画の策定をお示しください。

海洋高校への県外生徒の募集をバックアップできないか。また、食品開発・加工などで成果を上げている中で、産学官連携による新たな産業化を促進すべきではないか。

限界集落の現状と支援策の拡充。公民館体制の見直しについて。

過疎債の用途拡充に対する有効活用について。

以上で1回目の質問を終わります。

それぞれかなり難しい問題でもありますが、ひとつ誠意あるご回答をいただきますようお願いを申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

古畑議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、今年9月1日より東北電力管内において、高圧受電では15.24%、低圧受電では8.94%、平均で12.30%の値上げと見込まれております。市民生活はもとより、企業活動においても大きな影響があるものと考えております。

2点につきましては、国は総発電電力量に占める再生可能エネルギー発電の比率を30%に増加する方針であり、県は新エネルギーの導入を推進していくとしており、メガソーラー発電所の建設、地熱発電、小水力発電の可能性調査を実施する方針であります。

3点目につきましては、今年度、糸魚川の自然資源の特性を生かした新エネルギービジョンを策定し、実施可能な事業に取り組んでまいりたいと考えております。

4点目につきましては、市内関係団体によるアルペン村跡地等での地熱発電の構想もありますことから、可能性を調査してまいりたいと考えております。

旧姫川病院につきましては、施設等の現状から市として有効な活用が見込めない状況であります。

2番目の1点目の1つ目につきましては、越五の国は北陸新幹線の上越妙高駅を拠点とした周辺各市との連携であり、当市には糸魚川駅ができることから、参加を見合わせたものであります。

今回、設立いたしました北アルプス日本海広域観光連携会議では、糸魚川駅を核として圏域の枠を超え、より魅力的な旅行商品の開発や、イベントを推進していくものであります。

2つ目につきましては、日本海の新鮮な魚介を生かすことが誘客拡大につながるものと考えております。

また、民間主導でさまざまな展開を見せていますが、今後も観光協会及び観光関係業者と連携をいたしまして、地の利を生かした事業展開を図ってまいります。

3つ目につきましては、ヒスイ海岸はこの夏も石拾いを中心に多くのお客様でにぎわっていましたが、今後、市内海水浴場の魅力アップに向けて活用計画を策定する中で、準備を進めてまいります。

また、養浜事業につきましては、姫川港で発生するしゅんせつ土砂を有効活用した養浜について、県、地区、漁協と協議をしてまいります。今年度、押上・寺町間の海岸で試験的な養浜を実施する予定として聞いております。

2点目の1つ目につきましては、17年度から24年度までの8年間で、自然動態では2,852人の減少、社会動態では1,783人の減少となっております。合計4,635人の減少であります。国立社会保障人口問題研究所によりますと、将来推計人口では52年の人口が3万2,265人といたしており、30年間で1万5,000人減少するとの推計であります。

この主な要因は、少子高齢化によるものであり、労働人口の減少や税収の減少、社会保障費の増大、さらには地域コミュニティの減退などが考えられます。定住人口対策は幾つかの施策を重ね合わせる中で、事業展開することが重要と捉えております。

2つ目につきましては、保坂議員のご質問にもお答えいたしましたが、私も支援体制が必要と考えており、受け皿について検討してまいります。

3つ目につきましては、市内の高齢化率50%以上の集落数は43地区あり、支援策として地域担当制や集落サポーター事業、集落みまもり隊事業等を実施いたしておりますが、さまざまな角度での支援が必要であると考えております。

また、公民館体制につきましては、見直しの基本方針に沿って移行期間の中で、3地域それぞれで進めております。

4つ目につきましては、新たに対象となる事業の中には、企業誘致のための工場建設、鉄道建設やごみ処理施設などが検討されております。

使途拡大は歓迎であります。健全な財政運営を前提とした、有効な活用を検討していきたいと考えております。

以上、ご質問にお答えいたしましたが、再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もございますので、よろしくお願いを申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

1点目の電気料金の値上げによる市民生活と経済に及ぼす影響、これにつきまして税収への影響、特に法人税、市民税等につきましては、どのような影響が出るのかお聞かせいただきたい。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

竹之内市民課長。〔市民課長 竹之内 豊君登壇〕

市民課長（竹之内 豊君）

電気料金の値上げによる企業活動、あるいは市民の生活に及ぼす影響ということのご質問でございますが、企業におきましては、やはり必要経費の増大によりまして収益率が下がるということで、これまでいろいろな面で国外の安い労働力だとかエネルギーだとかを求めて、国外に活動の拠点を移している、そういったものが若干は、加速する面も今後出てくるのかなというふうには考えております。

また、市民生活におきましては、個人的な生活の面での経費という面ではかかわってきますが、市民税にかかわる部分はないかというふうを考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

これは大変大きな問題になるかというふうには思っております。

本年度の当初予算においても、法人税は対前年度40%も落ち込みが著しい。糸魚川市の中小・零細、個人といった企業の中において、電気料金の占めるウエートは大変大きいものがあります。それがいきなり17%も上がってしまえば、純利益からの損失が非常に大きく、ほとんど今、上向き基調だったものが、一気にさらなるマイナス基調に転落していくということが考えられます。

この問題をもうちょっと掘り下げてやりたいんですが、きょうはちょっと課題がいっぱいなので、これはぜひ担当課の皆様、これは注意深く見ておいていただきたい。この9月1日からの電気料金値上げ、それが来年度以降に、かなり暗い影を落とすということで、私も懸念しておりますので、これは追跡でぜひ注意深く見守っていただきたい。

さて、そこで今後の電力の安定供給は、産業発展、市民生活の発展と安定を図る上においても、最優先の課題といえます。3.11東日本大震災以来、原発の安全性が疑問視され、再稼働に向けてはさらなる安全性の追求がなされるもの、要するに、時間を要するというふうに考えております。

そこで安全性や地球温暖化問題とあわせて、自然エネルギーの開発は急務といえます。

先ほどご答弁いただいたところでもありますが、国、県の新エネルギーに対する推進、また、NEDOからかわりましたJOGMECですか、こちらのほうの方針から再生エネルギー開発促進は国策として推進している。国、県から糸魚川市さんどうだというふうな指導等はあったかどうか、お聞かせいただきたい。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

環境生活課長（渡辺 勇君）

お答えいたします。

国からの直接の指導というものはございませんけども、国のほうも今ほど言ったように革新的エネルギー環境戦略では、再生エネルギーを2010年度比3倍ということで、先ほど言った総発電力の30%まで、2030年度までには引き上げたいという方針でございます。これについては今のところで、エネルギー基本計画というものを国のほうでも今年度中に定めたいというふうにしております。

また県では、やはり新潟県グリーン・ニューディール政策のもと、再生可能エネルギーの積極的な導入を図っているということから、今回、地熱開発理解促進関連事業というものを県のほうでも取り組んで、電力そのものではなくて、それに対する要は付加価値といえますか、それをどうやって生かしていくかという促進事業にも力を入れていきたいということで、お聞きしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

固定価格買い取り制度、それから発送電の分離など有利な補助制度が、現在、国のほうでもメニューとして挙がってきております。

糸魚川市においては産業の育成や企業誘致がかなり難航している中、この現状の打開策としては、地熱、太陽光、水力、木質バイオマス等、市内企業が関心を寄せております。こうした新エネルギー

一を、やはり積極的に行政としても推進すべきと考えます。

そこで市内でも、さまざまなエネルギーに関する開発計画が進んでおりますが、行政としてはどのように把握しているのかお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

環境生活課長（渡辺 勇君）

お答えいたします。

市内企業といたしましては、地熱発電関係で2つの団体が可能性を調査いたしております。

それから小水力発電では1社といたしますが、特許を取得しまして、それを今後、生かしていこうという動きがございます。

それから太陽光発電につきましても数社、実際、自分のところで太陽光発電を実施しておるといふふうにお聞きしております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

市内の電化社が、青海川上流に水力発電ダムをつくるという話は今入っておりませんでした、これはなくなったんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

環境生活課長のほうでお話しませんでしたけれども、電気化学工業株式会社のほうで青海川上流に水力発電所を新たに建設したいという話はお聞きいたしております。消えてるわけではございません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

やはり糸魚川のエネルギー政策として、しっかりと把握しておくべき課題ですよね。言い忘れじゃ済まんでしょう。今のところ最も可能性のある新エネルギー、水力発電所の関係ですね。しかもこれつくってもらえば、電源立地で大変ないわゆる税収だって見込めるわけでしょう。こういうやっぱりいい話は、聞かれる前に答えるぐらいの気持ちでなきゃだめですよ。

今回、先ほども言いましたけれども、さまざまな産業で苦境に立たされるこの糸魚川市にとって、この新エネルギー開発の国の促進する方針は、私は天佑だと思っているんです。何も無いと言われ

る糸魚川市にあっても、やはりフォッサマグナを含めた、素晴らしい自然エネルギーの宝庫であります。したがって、やはりしっかりとした推進計画を、私は立てるべきだと思っております。

この10月30日に糸魚川市を訪られるという岩手県葛巻町、能生町とは古い交流のあるところですが、ここに私、2度も研修に行かせていただきました。素晴らしい、産業なんてものは何も無いなんて言われている奥地と言えば失礼ですが、また過疎化にも悩む土地でありながら、やはり自然を生かした産業を町全体で、行政全体で一体となって、もう日本に誇るべき素晴らしいクリーンエネルギータウンとなっておりますね。私はこれをまず1つのお手本として申し上げたい。

さて、そこで現在、大野地内では、高鳥 修前国務大臣を代表とする糸魚川地域地熱開発促進協議会を発足。研究機関も参加し、その可能性を探っているとしております。この内容につきまして、行政としてはどのように情報を把握しているのか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

環境生活課長（渡辺 勇君）

糸魚川地域地熱開発促進協議会が設立されたということで、大野地域において地熱開発の利用計画等を持っておるということで、糸魚川市としましてもその辺の情報を把握する中で、また、JOGMECに出向きまして、その辺のところの計画等の実施等についてもJOGMECのほうで確認をさせてもらっております。

実際、申請するのが法人になるのか、また、市になるのか、第三セクターになるのかという、そのところからの協議等も必要になってこようかと思えますけども、その辺等も含める中で、今後、地熱開発促進協議会とは、協議をしてまいりたいというふうには考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

ただいま名前が出たJOGMECですね、独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構、昔、NEDOというのが地熱発電等エネルギー開発しとったんですが、何かこっちにかわられたそうですね。そこでは糸魚川市の地熱発電の可能性については、どのように分析されておるんでありましようか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

環境生活課長（渡辺 勇君）

JOGMECそのものは、今のところまだ調査等に入っていないので、どれぐらいの可能性ということは示されておりませんが、JOGMECのほうで可能性調査を行った段階で、それが出てくるものと思っております。

また、その調査の費用につきましては、全額JOGMECが負担するということですが、一時的に立てかえ払いといいますが、経費を払って、その後、事業が終わった段階で、JOGMEC

のほうから補助金等が出てくるということでございますので、その辺のところも、今後、調査の検討になってくるのかなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

先ほど申しあげましたけども、糸魚川地域開発促進協議会、こちらが主催したHEARTの会というところが主体となって、ヒスイ王国館で研究発表会をやりましたよね。そのときの報告書によりますと、大変フォッサマグナ沿いには地熱発電の三種の神器と言われる、いわゆる亀裂も含めた3つの条件が整っていて、大変有望であるという話が出ております。この辺については、じゃあいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

環境生活課長（渡辺 勇君）

そのHEARTの会の試算では、2,000キロワット程度の発電量を有するのではないかとということでございます。また今JOGMECについても、補助金対象については2,000キロワット程度を目的とした事業計画ということでございますので、その辺のところは一応合致しているのかなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

これはその中で適地として大野地域が挙げられる。いわゆる平たんな土地の中で豊富な湯量、もちろん、それは地熱が豊富ということなんですが、それらを使ってやはり推進すれば、素晴らしい結果が出る。これを受けて、地元大野区の期待も大きい。

地熱発電のみならず、廃熱を利用した地域振興策というものも練られていると。行政につきましては、この辺を推進するお考え。また、こういった内容について、大野区とのお話をしたという経過はありますでしょうか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

環境生活課長（渡辺 勇君）

正式に大野区と、その地熱の有効活用について話をしておるということとはございませんけども、いずれにしても地熱は発電だけでなく、要はその余熱を有効活用することが、今後、地域振興に対しても大事なのかなというふうに考えておりますので、基本的には、そのあたりも協議していくことになろうかなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

渡辺課長は、いつもながらクールなお答えですけど、何か人がやってるのを、上から見てる感じしますよね、いわゆる人ごとに見える。

さっき言ってるように、じゃあ今後、新幹線関連工事が終わって、小学校、中学校といった公的施設の耐震設計が終わって、その後、糸魚川の産業はどうやって維持していくつもりですか。その切り札として、こうしたエネルギー開発に私は取り組むべきだと言っておる。何か一步下がったものの言い方ですよ。これを有効なチャンスと捉えて進めていきたいという意欲が感じられないんですが、そういう意欲は行政にはないんでしょうか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

いわゆる自然エネルギーというのは葛巻町を見ていただきますように、非常に大きな出力が出るものじゃありません。しかしながら地域の資源を活用するという意味では、いわゆるエネルギーの地産地消という原則に基づくものだと思っております。それがゆえに私ども糸魚川市も、もし地域に資源があるなら、それを活用すべきだと思っております。

ただ、実際の事業活動については、どちらかという民間さんに期待するわけですけども、なかなかこういう自然エネルギーの保存状況まで民間さんで調べろというのは、なかなか難しいと思っております。そういう面で、市としては調査事業とか、そういう民間さんが活動しやすい環境づくりをしていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

私は行政として、この千載一遇のチャンスを生かすために、もう1歩も2歩も踏み込んだエネルギー政策を私は展開すべきだと思っております。

ここに平成12年、吉岡市長時代に作成された新エネルギービジョンというものがあります。こうした社会情勢の変化に伴い、新たにこうした計画を策定する必要があると私は思います。市としても何度も申しますが、この千載一遇のチャンスを捉え、新エネルギー開発計画を策定して、ジオエネルギータウン糸魚川として全国発信すべきと考えますが、いかがでございましょうか。

先ほどから、ちょっと手を挙げちゃおろしてる副市長どうですか。出番がなくなっちゃいますけど、どうぞ。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

織田副市長。〔副市長 織田義夫君登壇〕

副市長（織田義夫君）

お答えを申し上げます。

先ほど市長も答弁しましたとおり、今年度、新エネルギービジョンを策定をして、それで実施可能な事業に取り組んでいきたいということであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

ここで米田市長、やっぱり今後の重要施策、産業育成。先ほど言ってるように30年もつ糸魚川市ふるさとづくりの大きな基幹の事業として、この再生エネルギー、これ本腰を入れて進めていくというお考えにはなりませんでしょうか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

最初の答弁でもお答えさせていただいたように、我々は自然が非常に豊富でございまして、それを活用することが一番大切であるわけございまして、エネルギーに対してもそうだと思うわけであります。

しかし以前からは、なかなかそういう環境ではなかったということも、また今の自然エネルギーの中にあるわけございまして、社会環境や経済環境が今、大きく変わってまいっております。特に、3・11以来、大きく変わってるわけございしますので、国の施策の中で、また新たな取り組みができる可能性もあろうかということございしますので、我々といたしましても今そういった再度の調査をさせていただきながら、取り組めるものは取り組んでいきたいし、また、民間の皆様方と連携も大事だと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

国においても、先ほどのJOGMECにおいても、やはり行政が参加していくということは大変好ましい。しかし、その場合はしっかりした計画を策定して、そして将来的な見通しを含めて、いわゆる候補地として事業計画をやっぱり手を挙げなさいと、こういう手法だったと思うんですよ。だからこの辺につきましても、行政といたしましても早い、新市合併してからですから、もう新エネルギー計画でいいと思いますが、新たなエネルギー政策、やっぱり冊子としてしっかりとまとめしていく。

糸魚川市の地熱発電だけではありません。そのエネルギーの開発の可能性は、私は無限大にあると思っております。糸魚川のやはり産業の育成という観点に対しましても、やはりこの件につきましては、ぜひ推進していただきたいと思いますと思っております。

さて、その大野区のいわゆる構想の中に出てきた、このアルペン村の地熱発電の拠点としての可

能性なんです、これらについては検討段階に入っているのかどうなのか、お聞かせいただきたい。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

地熱については、今どの地域が一番有望かというのは、調査してみないとわからない状況です。したがって、まだアルペン村に絞ったというところではないということで、今後、いわゆる大野地域で、どこが一番熱の可能性があるのか。そういったものを見据えながら、先ほどおっしゃっておられたJOGMECへの申請準備をやっていくような形で、今、検討を進めております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

このアルペン村の活用につきましては、米田市長も過去2回、ちょっと苦い思い出があるかというふうに思っております。ただ、148号の大変目立つところで、いつまでもああいう状態で野ざらしになっているというのは、私は糸魚川のイメージ的にも好ましくない。何かこういったことで活用ができて有利な条件であるならば、ぜひ糸魚川も乗っていただきたいというふうに思っております。これは今後の検討ということで、これ以上は結構です。

さて、もう1つ糸魚川のイメージを悪くするという点に関して言いますと、その148号に隣接して、さまざまな利用の可能性をこれまでも提言はありましたが、姫川病院閉院以来6年間もの間、放置されてきた姫川病院、こちらは所有者不在で建物の管理も放棄されて、荒れ放題になっております。この姫川病院の跡地について、どのようにお考えなのか。

市長は毎日通ってる道ですから、わざわざ私が写真で示さなくてもわかってると思いますが、本当に気持ち悪い。昼間行ってみても大変気持ち悪い状態ですが、この姫川病院をどのようになされるのか、お考えをお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今、市としても、以前から有効活用はなされないのかという市民の声もあるわけでございますので、いろいろ福祉関係もあろうという形の中で、調査したこともあったわけでございますが、なかなか法的な対応だとか、また今、裁判も行われておったわけでございまして、なかなか難しい環境だというわけでございまして、また、その中において市も今言ったように有効活用というのは難しい中で、今の中ではなかなか取り組めないというのが実情でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

権利や何だとかって、それは複雑な問題があるのはわかりますが、これがこの間、私、ブログのほうでも見せましたが、今回、一般質問をするに当たって現地を見ていったところ、窓ガラスが壊されて、中には落書きでありますとか、ご近所の話によりますと、若者たちがよく夜な夜な来て中で騒いだり、姫川病院の屋上まで上がって、たばこや缶ビールの空き缶が散乱してるという、そういう状態なんですよ。

三重県の朝日町でも、この間、悲惨な事件がありましたけれども、そういった事件が発生する可能性っていうのはないんでしょうか。これはいくら権利があろうが何しようが、管理を放棄されている建物、これじゃあ誰がこの治安と環境を守るということになっていくんでしょうか、お聞かせいただきたい。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

旧姫川病院につきましては、古畑議員さんがおっしゃられるように管理者実態がないまま、廃屋に近いような状態になっております。

市民の安全・安心という面からいきますと、防犯対策が必要だというふうに感じております。具体的には、土地所有者の方もおられますので、土地所有者の方と防犯対策について、また警察の方とも相談しながら、どういう防犯対策ができるかというようなことを私どもも研究をし、協議をしてまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

この件につきましては、私も大分あちこちで情報を集めてまいりました。さまざまな金融機関、抵当権、建設債等を持っていらっしゃるという話もいろいろ聞いてきましたが、最終的には、今、富山第一銀行、ここが1本ということになっております。

皆さんにおかれましては、この富山第一銀行と、この本来の姫川病院のこの管理体制についてお話に行ったことがございますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

この件につきましては、これまで2年ほど前になりますけれども、富山第一銀行のほうへ出向きまして情報交換といえましょうか、会社側の意向もお尋ねしたりした経過はございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

それは何年の何月ぐらいですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

平成23年11月30日であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

2年間、根気よく交渉してきたという話じゃないですね。私もこれ実際に支店長でありますがお話を聞いてきました。銀行としても不良債権扱いで非常に現在困っておると。私も幾つか、じゃあどうやったら権利を放棄してくれるか等の話もしました。幾つか例を出して現実的な話もあるけど、それははっきり言って古畑さん、あなたは一介の議員でしょうと。行政からは全くそういう話がないと、具体的にどうしたいというようなご相談、また、我々の相談も聞いていただければ、やっぱり本社のほうに十分それは上げて協議したいという話があるんですよ。行政としては、この跡地問題については、要するに我関せずの姿勢を貫くんでありましょか。やはり少しでも、あそこの景観も含めて治安維持や環境整備という観点からいけば、これだけ地元区、大野区からは毎年毎年、陳情を出してるって言ってますよ。それに対して行政側は、私どもは関係ないっていつまでそっぽを向く気ですか、お聞かせいただきたい。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはり閉院に至った経過の中においても、非常に我々といたしましても富山第一とはいろんな関係であったわけでございますので、その辺はあったわけでありませう。

しかし裁判という1つの事柄の中においては、なかなか我々が踏み込めるようなものではございませぬし、先ほど言いましたように、建物においても利活用の中においては大変難しいものがあつたという形の中で、現在まできとるわけでありませう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

難しい裁判の結果や責任問題は、あしたまた吉岡議員さんがお尋ねになるんだらうと思つてます。ただ、私が言ってるのは責任問題じゃない。そういったものが一定の今決着を見た中で、あそこを

そのままにしとくんですかって言うんですよ、未来永劫。

もともとあの病院は、行政、議会が地域医療の一翼を担うためということであそこに持ってきたものでしょう。それは使いものになりませんでした、建てっぱなしです、地権者の方にも多大な迷惑かけてるじゃないですか。私はそれじゃ血の通った行政とは思えませんが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

我々も調査したときには、そういうつもりで入ってるわけですが、調査する中においてはそういう状況。ただ、私は姫川病院だからということではなくて、ほかの施設もまた同じだろうと思っております。いろんな有効活用なり有効利用をされながら、そして市のために活躍してきた施設であるわけですが、全てじゃあ全部ああいう形になったものは、市でやれという形をとらされても我々是对応できないわけですので、我々といたしましてもその建物に対して、何かしらやはり有効な利活用ができるようなものがあれば、それなりにまたアクションを起こさなくちゃいけないと思う次第でございます。現在、そういった形の中では有効活用を引き続き我々も声かけていただき、裁判のいろいろな流れの中においては、現実的なものに動き始めているわけですので、そういったところも模索をしながら動いてるわけですが、今の段階の中では冒頭お答えさせていただいたように、有効な活用はまだ見出していないというのが実情でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

有効な活用については、長いまだハードルがあるでしょう。ただ、あそこを人を立入禁止にするとか、壊れたところについては板を打って入れないようにするとか、そういった環境保全ぐらいはできるでしょう、できませんか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

先ほど金子部長が申し上げたように、我々がやれるものはどういうものがあるんだろうか、そしてまたそれに対して地権者の皆様、そして周辺の皆様方、警察と、そしていま少し連携をとりながら、協議に入っていきたいと私は捉えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

姫川病院跡地が今どういう状態になっているのか、担当課はどのように把握しておりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

環境生活課長（渡辺 勇君）

防犯上からいきますと、誰でも入れる可能性があるということで、大変防犯上は好ましくない状況になっているというふうに把握しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

好ましくない現状というものを把握しているのなら、ひとつしっかりとした対応をとっていただきたい、これは強く要望します。

それから今、いわゆる地権者の話が出ましたが、この姫川病院と借地契約を結んだ地権者の処遇については、どのようにお考えなのか。地域医療拡充のため先ほども言いましたけど、閉院以来、要するに個人、法人、あんまり細かいことは言いませんが、対象の方が年間支払う固定資産税は多額であり、大きな負担となっております。利用価値のない土地に対して、多大なる固定資産税をいつまでかけ続けていくのか、そこの救済策はどのようにお考えなのかお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

竹之内市民課長。〔市民課長 竹之内 豊君登壇〕

市民課長（竹之内 豊君）

借地分の地権者が法人が1社、それから個人の方が6名ということで、1万5,000平米強の土地を平成22年4月以降、土地代を受け取れない状況が続いておりますが、直ちにこれを課税を免除、あるいは課税しないという法的な根拠がございませんので、引き続きその価値に基づいて、固定資産税を課税させていただいてる状況でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

市長、この状況をどのように考えますか。

固定資産税というのは、価値がある建物に対する税金であります、不動産としてのね。ただ、全く幽霊病院と化した姫川病院の跡地が、いまだそこにある。先ほども言ってるように、うっそうとした草花が茂る、気持ち悪くて誰も近づかない。ましてや何かに使いたいといったって、上に建物があるわけですから使えないじゃないですか。そういう全く使えない土地が、何で今ほど出た個人6、企業1、年間支払ってるのは400万円とか500万円とかの大きな金額でしょう。

それをしかも、ここは自分たちがやった企業の地権者じゃないじゃないですか。地域医療のため

という名目で、行政、議会が間に入って貸してくれということで、用地として貸してきた方々でしょう。いつまでこういう租税措置をやるんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

織田副市長。〔副市長 織田義夫君登壇〕

副市長（織田義夫君）

お答えを申し上げます。

そういったことの感情論、気持ちは十分わかるんですけども、地方税法の上からいきますと、その土地の上にある建物、それは利用しているか利用していないか関係なく、宅地ということで課税をされるということでありますので、ご理解願いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

課税免除の要件は、災害によるものやさまざまなもの、また、土地として利用が不可能なものについては、市長権限でそれを減免できるようになっとるじゃないですか。あそこは利用できる土地ですか。市長、これは何としても減免すべきじゃないんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

我々といたしましても、やはり一定の1つの法の基準の中で進めさせていただいているわけであります。今、ご指摘のような、いろんなことを言われますが、しかし、私は難しいと捉えます。それについて、ただ我々行政が見て判断で、我々が方向を出すというような話は、これからはないと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

それは冷たいんじゃないですか。地域医療のため、ここに病院を建てるから土地を貸してくれて。年間のこれだけの借地でやるというふうにやってきたんじゃないですか。その中で、それを市の、それは個人病院かもしれませんよ。けどもそういった経過があって、市があっせんしたものに對して協力した市民に対して、おら関係ないってこのまま税金取り続けるよ。土地を使うも使わんも、結局、持つとる人が使わんそい悪いんじゃないかねと。それだけの価値がある土地だと言い切るのは、あんまりにも私は不条理だ、血が通った行政とは思えん。それでいいんですか、本当に、そういう答弁で。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

ですから今、何もアクションのない中で、地域がという形の中で、やはり一番の今権限を持っているのはどなたか。そのどなたのアクションもない中で、我々行政が先になって、あれもする、これもするなんていう話は、私はできないと申し上げております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

私は地権者から頼まれたわけじゃない。地権者から頼まれていた大野区が、毎年、何回もこの案件で陳情してもいい返事が返ってこないということで、今回ここで取り上げたわけであります。けどアクションがあった場合には、ひとつ耳を傾けてあげていただきたいと思っております。これはいくら何でもかわいそう過ぎます。その辺について、よろしく願いをいたしたいと思うものであります。

さて続きまして、今度は時間がなくなったんで、人口対策問題へいきたいと思っておりますけれども、この限界集落の現状と支援の拡充、公民館の見直しといったところから入りたいと思っておりますが、糸魚川市の過疎化の実態というのは、どのように把握していらっしゃいますか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

当市の過疎化の現状ということであります。簡単には申し上げられない、非常にいろんな要素が絡み合った問題でありますけれども、今ほど答弁の中で高齢化率50%以上、行政ではあまり限界集落という表現はいたしませんけれども、意味合いとしましては共同体とか、あるいはまた集落を維持することができない地域というふうに捉えておりますけれども、43集落ございますということで、お答えをいたしました。

現在、糸魚川市では184の自治会、行政区と申しますか、ありまして、そのうちの43が高齢化率50%以上という集落でありまして、全体の集落の23%ほどを占めていると。これが数字的に見た糸魚川市の高齢化の実態の指標の1つだというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

限界集落は、50%以上の高齢化等を指す言葉でもありますが、これはやっぱり地域別で考えても、小滝が67%から今はもう70%いったそうです。上路が60%以上、議長のお住まいのある上早川は49.32%、ほぼ50%ですね。市長のいらっしゃる根知地区は46.47%です。これ

は中山間地だけじゃないんですよ。じゃあ私の住む中央区はどうかというと、中央区でさえもう38.38%、この市役所が所在している一の宮でさえ35.17%、さらにこれから中心商店街の活性化をしようとしている大町地区が47.8%です。こうした全体の過疎を、どう支えていくというお考えが、今行政の中にあるんでしょうか、過疎、高齢化に対する。

私は自助・共助・公助といいます。既に自助・共助の限界点が近づいていると思うんですよ、特に、中山間地では。これらについての手厚い保護が私は必要だと思いますが、どのようにお考えですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

齊藤企画財政課長。（企画財政課長 齊藤隆一君登壇）

企画財政課長（齊藤隆一君）

なかなか1つの施策で全てを救うという手だては、現実にはないというふうに思っています。

答弁の中でも申し上げましたように、行政側の支援としてできることという部分で、先ほど自助・公助・共助と言われました。自助・共助は限界というふうなご意見でありますけれども、まだその域ではなくて、それを何とか行政側のサイドの力をそこへ注ぎ込むことで、何とか住みなれた地区に住んでいただける、集落機能を維持できるという形のものとして、行政側とすれば地域担当制をひいたり、あるいはまた集落サポーター事業も投入したり、ことしから集落みまもり隊ということで、ある意味で外部人材を入れております。こういった幾つかのやはり施策を組み込む中で、事業を展開していくのが今の現状であります。

今、古畑議員の町場でも、中心市街地においても50%に迫る状況というのは、青海地区でもあります、糸魚川地区でもあります。こういったところの悩み、例えば買い物非常に困るという問題もあるでしょうし、交通手段に困るという現状も承知をしております。そういったことではさらなる施策が、今後、必要になってくるというふうには考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

それはそうでしょう。糸魚川市が昨年の時点では33.3%とってたのが、もう34.5%ですか、もう年々1%ずつ上がっていく。年々、真綿で首を絞められるように、高齢化社会というのは近づいてくるんですよ。その中に若者がいればいいですよ、面倒を見るまだ世代が、世代交流があればいい。けど高齢者だけが住む村、集落というのが、今いう糸魚川市の集落の中の4分の1を占めているんでしょう。その中で、よく自助・公助に余裕があると言えたものだと思う。

その中で今、進めようとする公民館の見直しは、どのようなもんですか。特に1.5人という、今まで2人だったことを0.5人外された地域から意味がわからんと、これじゃ集落が成り立っていかん。集落自治をどう考えるかという大変な見直し案に対する要望が出ております。これは教育委員会としてどのようにお考えですか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

原生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 原 郁夫君登壇〕

教育委員会生涯学習課長（原 郁夫君）

お答えいたします。

今、経過措置の23年、24年、25年という期間があるんですが、それを越えて糸魚川の場合はもう2年、2人体制ということで公民館の職員の体制があるわけなんです、それを越えた後、6地区において0.5人減員になると、今予定のところがございます。その地区の自治振興協議会長さんが、やっぱり0.5人削減は困る、元へ戻してもらいたいということで、この3月4日に連名で市長に要望書が参っておりました。

今、議員さんがおっしゃったとおりのような内容で、非常に地域としては困ると、やっていけないということでお話なんです、今、私の立場としては、実は23年2月14日、この議場において見直しの基本方針案、それと関係の条例が可決されて通ったということで、糸魚川市1本となった1つのルールができ上がったわけで、私としては課長として、この基本方針案に沿って各地域、能生、青海。特に青海は今16館から4館に移していこうという、非常に大変な時期に差しかかっておりまして、そういったところで職員の配置もルールどおりのものを、青海と能生にも適用して配置しておりますので、糸魚川だけ元へ戻すということが、なかなかできないということで、その6地域の会長さんたちにはお話ししたところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

全ての公民館を押しなべて均等にしよう。私も行政改革の委員長をやりましたから、そういった意味では1つの糸魚川、1つのルールという考え方で進める、これはいたし方ないと思う。

ただ、今回やっぱりご相談にみえた小滝の区長さん、やっぱり小滝だけを考えてみても、平岩、小滝、大所、山之坊、木地屋、何と1万8,000平方メートルに及び、糸魚川市の4分の1の面積、この中に人口が174人、95戸、高齢化率は何と70%、平均年齢65歳ですよ。人口だけでははかれない地域の実情に、私は目を向けるべきだと思う。

これ百歩譲って、公民館は公民館のルールで進めるんなら、それでいいでしょう。それでなきゃならんという中でいらっしゃるんならね。ただ、糸魚川市の公民館を考えた場合には、昭和の合併というのがあるんですよ。平成の合併で青海事務所、能生事務所が誕生したように、昭和の合併の中では、この10公民館、公民館となる前までは何だったんですか、お答えください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

原生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 原 郁夫君登壇〕

教育委員会生涯学習課長（原 郁夫君）

糸魚川市は1町9カ村が合併をして、新しい当時の市になったときには、各地区に中継所というのが設けられて、そこに正職員を何名か張りつけしてあったもの。それが中継所を廃止するときに公民館にかわっていったという経過を知っております。

20番（古畑浩一君）

その中継所って何ね。

教育委員会生涯学習課長（原 郁夫君）

中継所は今の能生でいうと事務所、また、青海でも一緒だと思いますが、その縮小版の形のものであるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

この10公民館は、いわば能生事務所、青海事務所と同じ扱いだったんですよ、昭和の合併以来。それが合併の中で、普通の公民館と一緒にされてしまう。今やっている、自助による公民館運営というのは、糸魚川市の中においては、やはり支館がそれに当たるんですよ。公民支館は各地区が、全部自腹でやってます。そういった意味では、同じ土俵だと思いますよ。しかし、糸魚川の10公民館を比較した場合は、能生、青海の事務所と同じ核として扱わなきゃだめでしょう。

例えば先ほども言ってるように百歩譲って、公民館機能の一本化と言うのならそれでもいい。だったら、この過疎状況を支援するための特定過疎集落支援事業という新しい事業を展開するというお考えはないでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えします。

これはやはり合併以来いろんな方々からお集まりいただいて、検討をいただいてまいったわけでございます。そして一定の方向が出て、今、進めさせていただいてるわけでございますし、またその中で今ほど0.5と言いましたが、逆に高齢化率の高いところとか、またいろんな関係で、0.5上げて調整をして、理解いただいたところがございます。

そのような流れでまいってるわけございまして、過去の今の経過というのは、これは中山間、山間地だけではなくて、町の中心部においても同じでございます。じゃあ人口の密度の高いところは、どういう配置なんだという、いろいろ判断されるかと思うわけでございます。そういう形になってくると、なかなか局部的なところを捉えて、それを全市にレベル的な基準というのは、なかなか難しいわけでございます。一定の基準は設けさせてもらって、今進めさせていただいております。

今、公民館を捉えてお話をさせていただいてるわけでございますが、公民館だけで、今、少子高齢化のそういった山間地の対処をできるわけでないと思ってる次第でございまして、今、議員ご指摘の制度の問題、また、今行っておる事業拡大等も含め、また、新たなそのほかの展開等もこれはあるかと思うわけございまして、そういった点は、やはり地域の皆様方と話をして、その問題に対してどういう手だてがいいのかというのは、やっぱりこれから取り組まなくちゃいけないんだろうと。高齢化社会において、そういうものが必要になると私は捉えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

もともとが行政のいわゆる支所だったんですね、合併のときは、それが長い間、そういったことで市民のいわゆる窓口業務をやってきたんです。社会教育法における公民館をやっぴり基本として考えるという教育委員会の考え方ですが、やはりそこには業務内容的に無理があるんです。やはり行政の出張所として役割がそこにあるんです。したがって、公民館の統一ルールはそれでいいとしても、やはりこうした地域の人たちと一緒に行政を施行していくための制度については、今ほど市長は前向きに考えていただけとおっしゃいましたが、こうしたやはり特定過疎集落支援事業、糸魚川市全体がいわゆる過疎債の対象エリアですから、全部とは言いません、できるわけがないんだ。その中で、やはりこうした特定の地域を特定して支援すると。こういったことについて、やはり推進していくという考え方。これはやっぱり、もう1回お聞かせいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今言ったように私といたしましても、いろんな問題、課題というものに対して、これから取り組まなくてはいけないということもありますし、今の状況を見ても感じておるわけでございますので、そういった問題についてはどういう制度で、また、どういう対応で、また、どういう事業でというのを、やはりこれから検討をしなくちゃいけないと思うわけでございますので、当然、今この公民館等で、いろいろ要望いただいておりますが、それに対応できるものもあるのかもしれないし、また、そういったものを探りながら地域の皆様と、これは今いただいている6地区、全て同じでないだろうと思っております。各地域、また同じ今要望が出てきとる中においては、いろんな問題、課題は違いたらうと思うわけでございまして、その辺をやはりみんなで連携をとりながら協議をさせていただいて、対応していきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

これは本当に市長のお膝元、根知公民館からも出されている要望ですよ、この見直しに対する考え方。市長はそれでみずからの考えにゆるぎないと言うのであれば、やはりこうした地域の皆様のご理解、そこのやっぱり区長さん、館長さんたちもご理解すべきだと思います、お願いするべきだと思っております。

それから主事で16万円、副主事で8万円というこの給与体系ですが、これどう思いますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

原生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 原 郁夫君登壇〕

教育委員会生涯学習課長（原 郁夫君）

今度、公民館の新しい職員は、全部連合会の職員ということで、今まで旧糸魚川の公民館にいた職員は市の臨時職員という扱いだったんですが、全て新しい連合会に切りかわっていくということで、そのときに職員の給与とレベルというのが必要になってくるということで、当時の事務員が考えたものは、この庁舎で働いている臨時職員の時間給を8時間に割り返して、それを1カ月、21日ということで、もう1回計算をして15万9,600円、これが16万円の出所であるということでありまして。半日の勤務につきましては、その半額ということで数字を設定させていただいたところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

今は主事ですよ、副主事はどうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

原生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 原 郁夫君登壇〕

教育委員会生涯学習課長（原 郁夫君）

新しく0.5人ということで、副主事になられる方については先ほど申し上げました半日ということで、0.5の職員であれば16万円の半額の8万円という設定でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

例えばその0.5をやめて1にしたところで、1人分で計算していけばどうなるんですか。全部でどれぐらいになりますか、年間幾らぐらいになります。主事さんに16万円渡したとして、それが8万円になったですね。それを12掛けて、ちょっと6公民館のを掛けて計算を出してください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

原生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 原 郁夫君登壇〕

教育委員会生涯学習課長（原 郁夫君）

1日の1日勤務の方が16万円ということで、これは年間でいきますと保険ですとか、また超過勤務の分、それといろいろの通勤手当等も含めて1年間で、当時計算したのが222万円ということで計算しております。また、半日勤務の職員についてもいろいろ計算しまして、113万円ということで計算しております。今これをその6地区で展開しておきますと、約670万円ぐらいの金額になるというふうに考えております。

20番（古畑浩一君）

570万円、ちょっと暫時休憩。

議長（樋口英一君）

暫時休憩します。

午後2時02分 休憩

午後2時04分 開議

議長（樋口英一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

原生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 原 郁夫君登壇〕

教育委員会生涯学習課長（原 郁夫君）

今、6地区のところには足りない半日勤務の人たちを6名張りつけば、どれくらいふえるかということで、678万円ということでございます。よろしくをお願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

0.5じゃなくて1で計算した場合にね。これを0.5で計算して0.5補助すると、この半分になるわけだ、340万円ぐらい。その金額でやっぱり補充はきくんですよ。また、それに付随するような同等の、さっき言った過疎地域特定の支援策を私は打つべきだと思う。そしてさらに来年からは政府・自民党は、過疎地域に対する過疎債の拡充を方針として打ち出してますよね。これらについては、どのように担当課では情報が入ってますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

国の過疎債の用途拡充の動きでありますけれども、これまでも市長も含めまして県の連盟でも、用途拡充についてお願いをしてきた経緯があります。まだ詳細は示されておられませんけれども、今、古畑議員がご質問なのは過疎債、これまでハード事業が中心でありました。3年ほど前からソフト事業にもということで、現在、糸魚川市でいえば医療関係、地域づくり関係、あるいは子ども医療関係とか、そういった事業に充当している事業であります。

当市の枠は年間約1億円であります。ほぼ枠を使い切るような形で、これまで事業を実施してきておりますけれども、今、お尋ねの部分につきましては、ソフトの用途拡充ということまではまだ示されていなくて、ハード事業の例えば鉄道事業とか工場建設とか、そういったこれまでにないハード事業の拡充については検討してるという情報は私らも把握しておりますけれども、ソフト事業の用途拡大については、今の段階では把握できておりません。

なお、また26年度の概算要求、先週、締め切りましたけれども、その中では地方財政計画の中では、年間約3,000億円であります、全国的には、国レベルでは。その中で大きくふえるとい

う要素はない数字を、我々のほうで今把握している状況であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

これどうにかしてくださいよ、本当に。これじゃ本当に中山間地の人は暮らしていけませんよ。同窓会の補助で3,000万円も4,000万円も使うんはいいですよ。けど本当に困っている人に対しての補助を何で出せないんですか、事業化してください、何としても。それはやっぱり早急に担当課として、この特定過疎地域支援事業、支援策って、やっぱり私は絶対考えてほしいと思う。やりようはあるでしょう、いろんな形の中で。公民館は公民館法でやりなさい、それは均一したルールの中でやればいいので、それはいいわ、やっぱりこっちだ。

市長、中山間地コミュニティ推進、もう老老自治の地域をどう助けていくんですか、これ考えてやってくださいよ。雪に閉ざされ、面倒を見てくれる子どもたちもみんな都会へ出てしまっておらんとか、頼れるものは誰もおらんといい中で、じゃあその自治、公助というものが崩れていった場合、どうするんですか。そこをもう1回考えてやっていただきたいと思うんですけど、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えしてるように、そういった形の問題について、これから検討させていただきたいということは、今、お答えさせていただきました。

しかし今ここでもって、この事業にはその額をどうのこうのという話は、今できないと私は思っております。これからどういう問題があるのか、どういう問題に対して、どういう制度化ができるのかということも、やはりしっかりまとめなくてはいけないだろうと思うわけでございますので、そういった調査や研究、検討、そしてまたそういう中でもって考えていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

それで結構です。今、糸魚川のことの例ばかり出しているから、旧糸魚川市の話かみたいに思っている議員さんもいらっしゃるようだけど、そうじゃない、青海から能生、先ほども言ってるように、それぞれ過疎で悩んでいる地域はあると思う。こういった事業、特定の過疎地域支援事業を使って糸魚川市、もう能生とか青海とかっていう言い方は嫌なんだけど、全部がやっぱりよくなるような、支援していくような事業を私はやっていただきたいと思います。

それからもう1点、糸魚川の海水浴場整備について、これどうしてもきょう言わんならんですけれども、交流人口増のためには観光としての海岸整備が必要です。海をどう生かすかという考え

方について、これ海岸の整備をどう進めているのかお聞かせいただきたい。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

交流観光課長（藤田年明君）

お答えいたします。

海岸に限らず日本海の活用、そこから出てくる食、そういったものはやはり重要な誘客ポイントというふうに考えております。特に当市の海岸というのは、やはり特殊性が非常にあると思っております。

糸魚川海岸はやはり砂利、そういう中で非常に澄んだ海となっておりますし、波が打ち寄せると石がぶつかり合う音がすると。また、能生海岸のほうでは砂浜ということで遠浅であります。そういったこういう観光素材をどううまく活用していくか、そういったことについて来年度といわず、できれば今年度から関係者の意見を聞く中で、ソフトもハードもあわせて計画づくりをする中で進めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

交流人口の増のために、この海の活用ということは大きい意味があります。観光の海、それから食の海、さまざま仕事としての海もあると思う。これはぜひやっていただきたい。

そして今後、協議会の中でいろいろ話し合っていく中においては、今、百川海岸の工事により、県内有数のサーフスポットとなっているこの藤崎海岸がサーフィンできなくなるということで、非常にサーファーの方が心配されておりました。こういったことの問題につきましては、ご検討された経緯というのはあるのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

串橋建設課長。〔建設課長 串橋秀樹君登壇〕

建設課長（串橋秀樹君）

百川海岸の海岸侵食対策事業ということで、サーフィン団体の方から何かこういう工事が始まるそうで、内容を教えてもらいたいということでありまして、古畑議員から紹介していただいて、7月5日の日に面談をさせていただきました。

その中でサーフィン団体の皆さんから、大体3つの要望がありました。サーフィンができなくなるから離岸堤の位置をかえてもらいたい。そしてテトラポットですと、離岸流とかというのが発生しまして非常に危険であるしということで、できれば潜堤に変更してもらいたい。それとあと、平成24年から27年度にかけて漁港課が実施する藻場整備事業というのがあるわけですけども、4ヘクタールの海底に藻場ブロックを並べるとい事業があるんですけど、それが消波に役立たないかということで、離岸堤をやめてもらいたいという要望がありました。

その内容につきまして7月18日に、我々のほうから回答をさせていただきまして、内容につき

ましてはゼロ回答であったわけですが、サーフィンができなくなるということは、本当にサーフィンファンの皆様にとっては、まことに残念でありますけども、市といたしましては百川海岸は海岸全面で砂浜がなくなってきておりまして、冬期風浪時には、直接、波が護岸にたたきつけられるという災害が発生しやすい状況になっております。それから百川藤崎地区の皆さんから、何年も前から要望が出されておりました、市のほうも長年にわたりまして県へ海岸侵食事業の要望活動を行ってきたところであります。

それで平成24年度の緊急経済対策という補正予算がつかまして、ようやく着手の運びになったわけでありまして、市といたしましては地域住民が海岸侵食対策、消波対策を強く求めていることを強く受けとめておりまして、現在、県が計画している事業を予定どおりに進めていくことが必要だというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

百川海岸侵食対策につきましては、本当に地元の県会議員、それから地元大滝議員等市会議員の方を含めて、これは何とか要望実現にこぎつけた事業。これはしかも生命安全、財産という観点からいっても、私はこれに反対するんじゃない。ただ、サーフィンを楽しむ海としての可能性を私は残していただきたい。今ほどの交流観光課長のお話の中においても、今後、こうした海の活用について協議をしていくという。

海は、私はあらゆる魅力があってしかるべきだと思うんですよ。災害対策も大事です。これは第一ですけども、その中においてレクリエーションとして親しめるやっぱり海というものを私は大事にさせていただきたいと思っています。今後、協議が始まるということですから、この件につきましては、期待申し上げるところであります。

結びになりますが、先ほどの人口問題、東京23区に匹敵する広大な面積を誇る糸魚川市、されど地域は森林が8割を超えて、人々の生活も高い山並みと深い谷々で分断され、冬は雪に閉ざされます。子どもや孫が地元を離れ、頼るべき家族もいない方々が多くいます。また、その多くが、地域を守るために一生懸命活動されてきた方々でもあります。

国や県も財政難を理由に、弱者切り捨ての風潮が見てとれますが、せめて我がふるさと糸魚川市にあっては弱者救済の立場に立って、血の通った行政を行ってほしいと切に願うものであります。

終わります。

議長（樋口英一君）

以上で、古畑議員の質問が終わりました。

ここで14時30分まで休憩をいたします。

午後2時15分 休憩

午後2時30分 開議

議長（樋口英一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、新保峰孝議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

新保議員。〔16番 新保峰孝君登壇〕

16番（新保峰孝君）

日本共産党の新保峰孝でございます。

私は、並行在来線、シルバーパス制度の導入、クリエイトワンフーズの新工場建設計画中止、T P Pと当地域への影響、当地域の経済状況と消費税増税の影響についての5点について、米田市長のお考えを伺いたいと思います。

1、並行在来線について。

- (1) 2015年春、並行在来線がJRの経営から切り離されることになっておりますが、現行サービスは維持できるか。
- (2) 国から並行在来線の経営に対し30年間支援が行われるとのことですが、内訳はどうなっているか。
- (3) ディーゼル・ワンマンカー運行とされていますが、安全対策についてはどうなっているか。
- (4) 優等列車の存続についてはどうなっているか。
- (5) 新駅設置についての要望は出しているか。

2、シルバーパス制度の導入について。

- (1) 今後、過疎化、高齢化がさらに進むことが予想されますが、高齢者の交通手段の確保、健康の保持が大きな課題となります。

高齢者世帯、一人暮らし世帯の増加等、今後予想される高齢化に対応した施策について、どのように考えているか。

- (2) 市内バス路線の内、黒字は何路線で割合はどうか。乗客数はどうなっているか。
- (3) 高齢者の身体機能や脳機能の低下が進む大きな要因に、家からあまり出ない、会話が少なくなる等があるのではないか。

外出するのに経済的負担がブレーキをかけることにならないよう、高齢者の交通手段について、シルバーパスの導入を検討したらどうか。乗客の要望により応えることができるデマンドバス方式にし、75歳以上の方は無料にしたらどうか。

- (4) シルバーパスで温泉も無料にし、高齢者の健康づくりを応援したらどうか。

3、株式会社クリエイトワンフーズの新工場建設計画中止について。

- (1) 株式会社クリエイトワンフーズが、会社設立から1年余で新工場建設計画が中止に至った経過と原因についてどのように考えているか。
- (2) 土地を賃貸借とするに至った経過と今後の企業誘致への対応はどうか。
- (3) 農地転用許可の目的が果たされない場合の扱いはどうなるか。
- (4) 用地購入単価の決定経過と地元の捉え方をどうみているか。
- (5) 新工場建設関連の市の総費用はどれくらいになるか。

(6) 未取得の個人所有地の購入についての考え方はどうか。

4 TPPと当地域への影響について。

(1) TPPに参加すれば国産のコメは10%しか残らなくなると言われておりますが、当地域への影響をどう考えるか。

(2) 労働力の移動自由化で賃金水準が歯止めなく低下し、医療に市場原理主義が持ち込まれれば国民皆保険の崩壊につながるということが指摘されております。そうなれば早期発見、早期治療などの取り組みも困難になり、地域医療にも多大な影響が考えられます。コメ以外の影響について、どのように考えているか。

(3) TPPの基本的考え方と当市が行っている地域産業の育成、振興策は、矛盾する考え方にならざるを得ないと思っておりますがどうお考えか。

(4) 地域を壊すことにつながるTPPには反対すべきと考えるが、市長はどのように考えるか。

5、当地域の経済状況と消費税増税の影響について。

(1) アベノミクスで景気の一部上向きも報じられておりますが、当地域の経済状況はどうか。

(2) 安倍内閣が消費税増税実施を検討しておりますが、その影響をどのように考えているか。

(3) 市長は今回の消費税増税をどう考えるか。

以上、1回目の質問といたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

新保議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、おおむね現行サービスは維持できるものと考えております。

2点目につきましては、貨物調整金、降雪対策支援、安全輸送設備補助、新幹線建設費負担軽減が内訳であります。

3点目につきましては、日本海ひすいラインでは2両編成のときは乗務員を2名体制とするなど、安全性を第一にした車両や施設の整備、管理に努めていくものとしております。

4点目につきましては、県、会社とともにJRに対して、存続をお願いいたしているところであります。

5点目につきましては、新駅設置は今後検討することになっておりますので、今のところ要望は出しておりません。

2番目の1点目につきましては、現在、健康づくりや生活習慣病予防対策、介護予防事業などに取り組んでおります。

2点目につきましては、蓮華線を除く生活交通のための36路線は全てが赤字で、年間利用者数は24年度で約47万9,000人となっております。

3点目につきましては、外出支援として、おでかけバス事業及びおでかけ支援タクシー券交付事業を行っており、好評であることから、この事業を継続してまいります。

4点目につきましては、温泉を利用した老人いこいの家事業を実施いたしており、温泉の無料化については、現在のところ考えておりません。

3番目の1点目から3点目につきましては、50名の雇用増が見込まれたことから市が造成を行い、賃貸借をする方向で取り組んでまいりましたが、原材料の高騰、さらには円安による調達コスト上昇のため厳しい状況となり、本年3月29日に新工場建設断念の報告があったものであります。今後は農地転用の目的を果たすべく、企業誘致に取り組んでまいりたいと考えております。

4点目につきましては、近隣の地価公示価格、固定資産評価額をもとに価格を設定し、地権者との交渉により購入単価を決定したものであります。

5点目につきましては、用地購入費、造成費、水道・下水道工事費等で、およそ1億7,400万円となる見込みであります。

6点目につきましては、土地の有効利用を図るため取得してまいりたいと考えております。

4番目につきましては、TPP交渉では、現在、加盟国間で交渉が進められている段階であり、内容が不明であるため市長としてのコメントは差し控えさせていただきます。

5番目の1点目につきましては、糸魚川経済団体連絡協議会の本年6月の景況調査の速報によりますと、景況感はマイナスながら全業種で改善傾向を示しております。

2点目と3点目につきましては、大きな影響があるものと思いますが、市の段階では予測しかねますので、市長としてのコメントは差し控えさせていただきます。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もごさいますので、よろしくお願ひ申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

ことしの春の段階では、国の支援が新幹線貸付料に含まれる並行在来線の赤字解消相当額780億円、県の試算では、さらに50億円上乗せされて830億円の支援ということも言われておりましたけれども、大きく減額になったのはなぜか、この辺のところをお聞かせ願ひたいと思います。

それともう1つ、貨物調整金の拡充ということも、以前、言われておりましたけれども、これらも含めて現在の740億円の支援、30年間で、その辺のところをお聞かせ願ひたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

新潟県がこれまで国と調整してきました支援は、ことし発表されました780億円相当は、並行在来線のために支援いたします。それに県が、さらにもう少し自分の資産を加えますと830億円という発表がございました。そういう中で、新潟県の並行在来線に対する支援措置というのは、貨物調整金、それから貨物経路確保支援、それから安全輸送設備補助と、また建設費の負担減でございます。そういう中で、国はそれを780億円、30年分として支援するというので、これ自体は変わっておりません。

それと2月に、県のほうで説明に参りました会社に対する支援は、直接来るのが740億円で、

プラス４０億円は県は会社に対して例えば車両の整備費とか、それから指令システムの設備費等で、またプラス４０億円を補助しますので、合計７８０億円という、その数字に変わりはありません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

新保議員。

１６番（新保峰孝君）

そうすると７８０億円、国から支援されるというのが、そのうち４０億円が県のほうへ行って、県から支援のほうに回されると、そういうことですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

そのとおりでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

新保議員。

１６番（新保峰孝君）

それぞれの内訳というのは、これはわからないんですか。以前、貨物調整金のときには、いろいろ具体的に数字等を出されておりましたけれども、先ほど言われた貨物経路確保措置、信越本線の関係とか、北陸本線の関係では貨物調整金、そういった豪雪対策措置等々安全輸送設備整備補助、こういう北陸本線、あるいは信越本線でそれぞれ計算して額が出されたと思うんですが、その辺のところはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

この７４０億円プラス４０億円の７８０億円の個々の、それぞれ今４つの項目の内訳というものは公表されておられません。

以前、貨物調整金というのは、拡充前は２５０億円に相当するということで、いろんな制度の解消の中で、それが相当数上がったということは聞いておりますが、今、申し上げましたように、この４つの個々の内訳は公表されておられません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

新保議員。

１６番（新保峰孝君）

先ほど市長答弁で、現行サービスは、おおむね維持できるということでありましたけれども、運賃の関係でいうと、私は現行、あるいは少なくとも富山県は、今、新潟県の関係で出しているものよりも低く抑えてますよね。もっと現行に近く抑えるべきだと思うんですが、この辺のお考えをお

聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

市長が申しました現行サービスは、運行本数についてでございます。いろんな支援スキーム、経営計画の中では、以前は1.6倍ということがうたわれておりましたが、今のところ1.3倍の運賃でも、何とか30年間会社が維持できるという形で示されております。

ただし本市としても富山県と接しておるわけですし、これは妙高上越は、また逆に長野県とも接しております。そういう中では、できるだけ隣の会社と運賃を合わせるような形で、もう少し会社のほうも頑張っていたきたいし、また、新潟県のほうも、もう少し支援をお願いしたいということは申し述べております。

失礼しました。富山県は、うちの1.3倍よりも下回る1.2倍ぐらいという形でお聞きしておりますので、それに近づけるような形で、お願いしたいということは申し述べております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

できるだけ現行に近づくように頑張っていたきたいと思います。

その中でも通学定期ですよね、特に高校生の皆さん、これはもう大勢の方が高校に通われているわけで、その影響はやはり考えなきゃならんと思うんですね。通学定期は、これだけは現行並みにすべきではないかと思うんですが、この辺についてはどのようにお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

前のご質問の中で、富山県は現行を下回るサービスという言い方を新保議員はおっしゃいましたが、決してそうではございませんので、我々といたしましても、やはり富山県と同等、また、それ以下に頑張っていたきたいお願いをさせていただいております。それは生徒の通学定期についても、同じでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

ぜひそういうことを、通学定期を現行並みにということで頑張っていたきたいと思います。

それと3市地域連絡会が、昨年8月に実施したアンケートでは、電車での運行を望む方が全体で62%、糸魚川地域の方では72%ということであったということであります。運行区間も、これ

は3市全体ですから、長野あるいは富山方面、ここまで連携してもらいたいと、そういう声が8割を超えているということでした。

現在、長野までの運行というのは、これは協議されているということでありますし、信越本線はもちろんご説明のように電車になっております。これに対して北陸本線のほうはディーゼル、ワンマンカーが基本ということでありますし、泊までということであります。この辺のところを電車の運行、富山までの運行がなぜできないのかと、その辺のことについて伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

これは何度も説明してきましたが、北陸本線につきましては、今の乗車人員、それから乗車密度からいってディーゼル運行していかないと、さらにいろんな貨物調整金のほうのはね返りもありますし、それから赤字幅がまたふえて、またこれが運賃にはね返るということで、今、1両ないし2両で運行できるディーゼルカーが、最も効率的な運転ができるということでお答えしたとおりであります。

また、各線の乗り入れですけど、これは北陸本線側は泊駅、それから信越本線は妙高高原駅ということで、これをそれをまたさらに富山までというふうな形で伸ばしますと、また富山と新潟県の乗車密度が違いますので、これまた不要な列車を2両編成どころじゃなくて、富山のほうは6両ぐらいで走るので、そういう経費が常にかかってくるということで、今、こういう計画で進めさせていただいているところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

JRは糸魚川・長野間には特急は走らせないという考え方です。現在、「北越」とほくほく線の関係でも、糸魚川を特急が通ってるわけですけども、「北越」が廃止されると。そしてほくほく線にも特急が走らないということになると、「くびき野」だけになってしまうということになるんじゃないかと思うんですけどね、長岡までの北陸本線、信越本線、JRはどういうふう考えているのか、ご承知でしたら伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

これも何度も申し上げておりますが、長距離の輸送については、当然、新幹線が走りますので、新幹線がその役を担います。そういう中で、うちのほうは「北越」は、これは西日本は金沢までが、もう全て並行在来線になるわけですから、なかなか走らせづらいということの中で、少なくとも「北越」相当のものはJR東のほうに、ぜひこれは残していただきたいと、こういう形で常々お願いしております。

そういう中で、今、いろんなコメントもいただいておりますし、それから、これは走らすのは主として直江津から新潟県までは東の管内です。ただし、いろいろ運転手等も含めて、これは東のほうでは西、それからえちごトキめき鉄道とも相談した中で、検討していきたいというような形で、これは先月28日の東日本の新潟支社長は、含みを持たせた発言をしているところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

「北越」相当という言葉方をされましたけれども、現在走っている新潟から金沢間の特急「北越」、この存続を基本的に強力に求めていくと。どうしてもこれがだめであれば、直江津からじゃなくて糸魚川から今言った快速を走らせる。そういうふうにししないと、この糸魚川地域が取り残されてしまうと、いろんな中で。新幹線は東京へももちろん行ってるけども、じゃあ新潟のほうはどうなんだということになりますから、そのような考え方でやられてると思いますけれども、より一層力を入れて、これ実現されるようにやってもらいたいと、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

議員ご指摘のとおり、我々といたしましても今現在の「北越」、糸魚川を結節点をお願いをしているところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

新潟への高速バスも黙っていればなくなると。市が頑張っ、これを存続させたわけです。ですすから最初の今、新幹線が通ると、開業すると。こういうときに、一番最初の基本というものをしっかりさせておくべきだと思うんですね。

やっぱり糸魚川市の考え方をここでしっかりさせておかないと、後々、糸魚川から通してくれと言っても、なかなかこれはできなくなると思いますよね。ですからぜひ、先ほど市長答弁ありましたけれども、そういう点を考えてやっていただきたいと、思います。

それで安全対策に関した点で伺いますけれども、昨年12月4日に起きた中央自動車道笹子トンネル天井板落下事故、これは自動車道でありますけれども、9名の方が亡くなっております。これは自動車道のトンネルだけではなくて、鉄道のトンネルにつきも同じことが言えるんじゃないかというふうに思います。こういうトンネル内の壁の落下が起き始めておりますけれども、劣化が進むトンネル施設等の補修については、どの程度なされて引き渡されるのか。引き取ってから、トンネルの壁が落下するようなことがないようにしてもらいたいと思いますが、この点についてはどういうふうになってますか、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

譲渡施設の引き渡しの際の点検なり修繕は、これは必然だと思っておりますので、そのような形で進めていただいているところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

最近、鉄道におけるディーゼル車両の火災事故が多発しているように思います。何らかの原因で、北海道石勝線事故のような車両火災が起こった場合、三セク鉄道が発足してから、スタートしてから、どのように想定し、安全対策を考えているか、この点について伺いたいんですが。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

JR北海道のケースは別として、基本的にディーゼルだから火災が起きやすい、それから電車だから起きにくいという事例はございません。これは以前にもご説明させていただいたと思っております。

ただ、特に鉄道、要するに長大トンネルが多い当北陸本線については、今のJRの対策に加えて、きのうも申しましたが、いろんな列車が停車したときの非常措置、それから運行管理所から当該トンネルの照明を点灯させることができるように施設の改修、それから500メートル以上のトンネルには誘導設備等、より一層きめ細やかな安全対策をとっていただくという経営計画になっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

例えば避難路という点で斜坑が4つ、筒石の駅も含めてありますけども、11.353キロメートルのこの頸城トンネルの関係で山王斜坑の場合、冬期間、集落からこの斜坑があるまでの間は、除雪はされていないと思うんですね。人が住んでないところは除雪はしてないと思うんですが、そうなった場合に、もし災害というか火災事故が起こった場合、救出する場合に、この山王斜坑からということの場合、ずっと除雪をまずしていかなきゃならんわけですよ。そういうふうな点については考えておられますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

いろいろな斜坑に対する安全対策のほうも、えちごトキめき鉄道のほうで考えております。ただし斜坑の出口といいますか、これは頸城トンネルが44年にできて、たしか出口は例えば山道とかそういうところがございます。それを全て今四十数年、かつて今まで多分一度もそういうケースがなかったものを、毎日毎日そのために冬やるというのは、現実的ではございませんので、そういうものがあつたときには、例えば雪上車での除雪を、そこへ行けるような体制をとった中で運用していくというのが、現実的だと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

毎日やるということじゃなくて、想定はきちんとしておくということは大事だと思うんですね。

それで11キロもある長大トンネルで、ディーゼル車両による火災事故が起こった場合、恐らくそうなればトンネルの中の送電ケーブル、これも焼けてしまうと思います。そうなれば電灯もつかない。有毒ガスが充満する中で、真っ暗な中での避難ということになるんじゃないか。多大な犠牲者が出る可能性が高いと思います。検討された、先ほど言われたそういう対応で、対処できるとお考えですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

今、原則的にトンネル内でそういうことが起こった場合は、基本的には列車を走らせてトンネル外へ、できるものであれば第一にそういう対策をとるといふ、まず、そういう規定がございます。逆にディーゼルであれば、送電線からそういうものが切れても自力で走れるわけですし、また、仮にディーゼル特有の事故が起こった場合に際しては、今以上の安全基準、いろいろそういうトンネルにも防煙扉等を設けた中でやるということ、これは同じ形になればどちらとも、これは起きてはならないことですが、電車であってもディーゼルであっても、例えば電気が切れるのは同じになりますので、その辺を含めた今後の避難対策や、関係機関とのいろんな避難、安全の基準等を、またより一層高めていく必要があるなと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

北海道石勝線事故での避難者の声、前にも質問したときに紹介させていただきましたけれども、もう1回紹介させていただきます。

「石勝線はトンネルの長さは685メートルです。煙が充満して、目の前の人の背中しか見えなかった。苦しかったです。煙で死ぬって、こういうことなのかと思うぐらい、本当に初めて苦しい体験しました。」、こういうふうな乗客の方のコメントですね。こういうふうになるんでないかと

思うんですね。

頸城トンネルの場合は、11キロで4カ所に斜坑があるということは、大体3キロぐらいずつにあるわけですよ。そうすると、その真っ暗の中を避難せんきゃならんということになるわけで、電車と違うのは火災になった場合、そこに軽油を抱えて走ってるわけですよ。電車の場合とは、また火災になる、そういう状態も違えば、その被害といいますか、そういうところも違うんじゃないかと思うんです。今紹介した、そういう声を聞いてどのように感じられましたか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

電車にしるディーゼルにしる、まず、そういう事故をできるだけ起こさないというのが基本ですが、だからといってディーゼルが危険、電車が安全ということではないと思いますし、それぞれ今、実情に合った避難対策なりをしていくことが、重要なことと思っております。

ちなみに、石勝線もディーゼルだからということではなくて、基本的には車両の連結部品が落ちて、それがもとで火災に。実際にはどのような状況で火災になったというのは、なかなか今、報告が出ておりますが、検証されておられません、基本的には列車部品が落ちて、そこにレールに乗り上げて脱線した結果だというふうにお聞きしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

環境省のホームページでは、ディーゼルエンジンの排ガスについて、数百種類の有機と無機の成分を含んでいるというふうにあります。

11キロもの長大トンネルでディーゼルエンジンのこの排ガス、あるいは火災が起こった場合、軽油が直接燃えるとか、そういうことになりますけども、ディーゼルエンジンの排ガスの中に含まれている中には、肺がんを引き起こすといわれている超微粒子PM、中国で最近話題になりましたけども、あの光化学スモッグのような、ああいう微粒子ですよ、その他有害物質が影響を及ぼすわけでありましてけれども、そういう点について電車もディーゼルも、あまり変わらないというふうに影響を軽く考えていらっしゃるんじゃないかなというふうに思うんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

これも以前、ディーゼル車の運行と、安全環境対策についてというのは何回もお話をさせていただいておりますし、そういう中ではディーゼル車、ほとんど影響がないという結果も、これはいろいろそこに装置を置いた中で出ております。

そういう中で、それを突き詰めていきますと、例えば電気は火力発電で起こしとるという、何かそういう本当にこことは違うところの話のようになりますので、今ここで調べた中では、環境基準

をはるかに下回ってるという数値で確認されたということで、説明させていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

こういうことはあってはならないわけですが、ディーゼルにした場合に、この長大トンネルの中で火災が絶対起こらないということはありません。それは電車でも北陸トンネルで事故を起こしたわけでありまして、当然あるわけです。そうなった場合に、このディーゼルエンジンというその性質上、いろんな有害物質がトンネルの中で出ているというのを、あまり軽く考えちゃいけないんじゃないかということでもあります。

これまでの鉄道、ずっと鉄道も発展してきて、その中で今まで電車が走っていたものをディーゼルにまた戻すというのは、基本的には私はおかしいと思うんですね。利用者の安全、そして将来を考えて、当初考えられていたように、あり方懇のときは、これは電車だったわけですよ、交直両用の電車にすべきだということを述べておきたいと思います。

新駅の点では、これからの検討だという答弁でありました。押上駅の要望というのは出ていると思うんですが、利用者、市民の利便性というものが一番ではないかと、こういうことを考える場合ですね。都市部の電車のようにはないと思いますけれども、押上から要望が出ていると思うんですが、押上にできれば高校生、通勤者、地域の方たちが利用できるようなと思いますし、三セク鉄道のいいところというのは、地域に密着しているところではないかというふうに思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

これについては県、それから市、それからえちごトキめき鉄道の、いろんな駅の作り方のスキームがまだ決まっておりません。これは押上駅を否定するものでも、まだ肯定するものでもありませんので、今後その中で検討して、今言われたように例えば利便性が上がったり、それから利用者がふえるのであれば、それはそういう検討は必要かと、駅をつくっていくという形も必要かと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

ぜひ市も力を入れて取り組んでいただきたいと思います。

シルバーパスであります。75歳以上が平成22年で8,688人ということになります。この75歳以上の方で、バスを利用されている方はどれくらいかというのは、把握されたことはありますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

75歳以上ではございませんが、高齢の部分のサービスの中で、高齢者おでかけ支援事業を利用されております70歳以上の方でございましたら、平成24年度で7,831人の方が対象者として捉えております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

高齢者運転免許自主返納支援事業というのがありますよね。免許証返納後の交通手段及び要望というのは、これは聞いておられますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

環境生活課長（渡辺 勇君）

お答えいたします。

高齢者の免許自主返納事業でございますけども、自主返納された方につきましては、タクシー券2万円分、もしくはバス券2万円分、それからバスとタクシー合わせて1万円ずつということで制度がございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

その制度で運転免許証を返納した場合に、その後は足がどうなるかということで、そういう点について要望を聞いたことがありますか。交通手段。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

環境生活課長（渡辺 勇君）

その後の交通手段の要望というのは、特段、私のところでは聞いておりません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

市のほうの現在の取り組みの中では、結構いろいろとバスについてもデマンドタクシーという名

前で取り組まれている山間部の地域もございますし、いろいろ総合的に取り組まれていると思うんですが、現在、空バスも時々見かける状況でありますし、いかに利用者が利用しやすく、かつ効率的に運行するか、そういう改善というものを考える必要があるんじゃないかと思うんですが、この点についてはいかがでしょうか。最初の答弁で蓮華線以外、黒字のところはないというふうな答弁ではなかったと思うんですが、その点について伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

路線バスも非常に、いろいろ工夫してはやっておりますが、今、市長が答弁で申しましたように、いわゆる生活路線は全て赤字でございます。そのほかに、それを補完する意味でコミュニティバスというのも13路線走らせておりますが、それについても年間4,500人ほどの利用者がおられますが、やはりこれはバスに比して相当な1人当たりの単価というのがかかってまいります。そうはいえ、だんだん高齢者がふえる中でどういう足といえますか、確保が一番いいのかというのが、正直これは6月にもいろんな方から質問を受けましたが、今のところこれでいけるというものが、なかなか見出せないところでございますが、その中では中山間地のいろいろ活性化等も含めた中で、いろんな福祉、それから企画と連携した中で、どういう交通手段が糸魚川では一番いいのかというのを、もう少し調査検討していかなければならないと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

私が75歳以上の方を対象に、シルバーパス制度を導入したらどうかということを提案しているのは、1つは基本的には敬老の精神、一定の年齢までは一生懸命働いてこられた方たちに対して交通手段の確保、それから健康づくりに役立てていただくためということであります。

そういうことによって感謝の気持ちと同時に、買い物とか病院、あるいは友達のところへ出かける、外へ出る手助けをするということにもなるわけですね。それが健康維持にもつながるといふふうに考えるわけであります。

それと同時に、高齢になると身分証明をするものがなくなってまいります。例えば免許証の返納という場合、免許証がいろんな手続をするときに、その証明になったわけでありまして、今度はそのなくなると。写真入りで身分証明書がわりにもなるということで、提案させていただいているところであります。ぜひこういうことも、さらに今の市がやっている取り組み、これを発展させていったらどうかというふうに考えるんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

今ほど議員さんがおっしゃられたように、お年寄りの方を敬うということは、これは非常に大事

なことだと思っております。

ただ、今現在、市内でも人口構成がご存じのとおり、少子高齢化で逆ピラミッド化してるわけです。そういった中で、今まではそういう優遇制度というのは、お年寄りや障害者などの弱者と言われる方について中心だったわけですが、これから糸魚川市が持続して市として発展していくためには、これからを支える子どもたち、あるいは若い人たちを、さらに支援していかなくてはなりません。

そういった中で、糸魚川市としても例えば子どもたちの医療費の無料化とか、そういった今、充実をさせていかなければならないわけです。そういった中で、やはりお年寄りの方も負担能力がある方については、やはり一定の負担をしていただかなければ、私ども市の財政状況というのは維持できないわけです。

そういった中で、今現在、お年寄りの方に、先ほど市長からも答弁しましたように、おでかけパスや老人いこいの家といった、いわゆる低利で使えるような支援作業をしてるわけでございますので、ぜひ全世代への支援策も必要だということで、ご理解をいただきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

クリエイトワンフーズの関係でお聞きします。

昨年6月定例会で、企業団地造成工事費と用地購入費等が計上されました一般会計補正予算が、28日に議決されました。その9カ月後に、新工場建設中止が市に報告されたということですが、こういうことはよくあることですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

企業誘致の相談がありまして、このように予算化をして工場断念というふうな経過に至ったのは、今回が初めてだと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

新工場の製品をつくる材料のコウイカの需要は、以前からふえているということはわかっていたのではないですか、価格が上昇していることも。想定外は、急激な円安ということだけだったのではないかというふうに思うんですが、この辺のところはいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（斉藤 孝君）

原料となりますコウイカの漁獲量の不振と、それによる価格の高騰、そこに円安が追い打ちをかけたというふうに聞いておりますし、社会の変化もそのようになってきていたんだなというふうに感じております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

特例で土地を賃貸借としたわけですね。この特例としたことによって、計画の中身の審査が甘くなったということはないですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（斉藤 孝君）

クリエイトワンフーズの親会社となります東食品の状況ですけども、非常に増産基調であることも確認しておりますので、中身的には問題はなかったというふうに感じておりますけども、やはり先ほど言いましたように原料の価格の高騰と、円安による部分の打撃が出てきたんだというふうに感じております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

通常の場合は、企業が新しく工場をつくるなり事業所を開くなりする場合に、市としてはその土地を買収してもらうということ、それでもって建物も下の土地も先ほど質問がありましたけれども、一体にすることによってきちんとしてもらうと。その後、いろいろと問題が起こらないようにするという考え方ではないのかなと私は理解しているんですけども、こういうふうなことが、今後また起こらないようにということで、この特例にした扱いと、これは今後どういうふうと考えていくのか、その辺のところは、どういう方針を出されましたか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（斉藤 孝君）

昨年の4月に、企業の進出協定を結ばせていただきまして、会社側は翌年の3月、本年の3月に工場の生産にこぎつけたいというふうなことでございまして、非常に時間もタイトでありました。

今回の場合は、真ん中に個人の土地が入っておるわけでありまして、それも一体として造成工事を進めてきたわけでありまして、今まで市が取得をして借地をするというケースはなかったわけでありまして、雇用が50人創出されるという、非常に市としては定住人口の増にもつながるわけでございますので、そういう部分について借地もやむを得ないなということで、事業を進め

てきたことでもあります。

今回のケースを十分に検証しながら、今後の企業誘致活動の参考としていきたいというふうに考えておりますけども、やはり雇用と、それから事業者の投資という部分を見比べながら、どのような支援基準にしていけばいいかということも、検討しなくちゃならないなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

農地買収単価で伺いたいんですが、この買収単価の基準を宅地にして、修正して単価を出したというのはなぜですか。農地と宅地ということでは、単価に大きな違いがあるんじゃないかと思うんですが、この辺について伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

能生インター付近にございます国土交通省の地価公示価格を参考といたしまして、宅地見込み地ということで、地権者の皆さんに交渉に入らせていただきました。宅地見込み地でありますので、市が田んぼを造成するわけでありまして、宅地で評価されるものを造成費を引いて、地権者に交渉させていただいたところでありまして、市道槇能生線の買収単価が交渉の中で提示されたこともございまして、それも参考にしながら宅地見込み地ということで、造成費用を引いて単価提示をし、妥結いただいたということでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

その地域で水田の売買というのは、そうしょっちゅうあるようなことじゃないんでしょうけども、そういうものは参考にされなかったですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

今申し上げましたように国土交通省の地価公示価格を参考にし、宅地見込み地ということで市が造成に要する費用を引いて、なお近隣にあります市道槇能生線の買収事例を参考にしながら、宅地見込み地ということで単価を決めさせていただいたところでありまして。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

売る側と買う側との交渉で価格が決まっていくわけなんで、ある程度、やむを得ないという面もあると思いますけども、やはり高いんでないかと、その関係地域の皆さんが思われるような、そういうことはできるだけ避けるべきでないかと。やはり市民が納得できるような、そういう対応をぜひしていただきたいというふうに思います。

計画中止後に、造成関連の工事を行ったというところがありますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

造成の工事は、ほぼ終了しておりましたので、その周辺のインフラ整備につきましては、計画しておりましたものを見直せるところは見直して、インフラ整備も終わらせていただくという予定にしております。現在は、水道・下水道管の布設も終わっておりまして、秋の採り入れ後、舗装に入りたいというふうな状況で、現場のほうを進めております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

使うものであれば、早くやらなければいけませんけども、使わないものであれば、当面やらないでいいものは私はやらないで、費用をあまりかけるべきではないんじゃないかというふうに思います。

個人の所有地の購入の点でありますけれども、購入済み土地の取得単価2万1,200円、平米当たりを上限として、交渉したいというふうになっておりますが、これは新工場を建設するということで市も支援したと、市も支出をした。それが今、別のものにすぐ転用できる、ほかの事業者が来て、すぐ使いたいという状況じゃないと思うんですね。しばらく休眠状態になるんじゃないかと思うんですよ。当然、それらも加味して、購入価格が決められなければならないというふうに私は思うんですが、考えを伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

今後の企業誘致活動がスムーズに進められますように、また、敷地全体を有効活用できますように、今、地権者の方と、また、抵当権者の方とお話しております。価格につきましては、今、議員が言われましたように、両サイドの購入価格を下回るということで、ご相談を申し上げておるところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

高いと言われているわけですね、両サイドの土地も。そういう中で中止になった工場をつくる、その関係でその真ん中の土地を買う場合に、両サイドと同じ値段で買ったっていったら、市民の理解なんか得られませんよ。当然そういうことも考えて、交渉してもらいたい。もしそうならないんなら、私はやめたほうがいいと。どうせというか、抵当権に入ってるわけでしょう。それほど無理して買う必要は、今はないというふうに私は思います。きちんとそういうことを考えた上で交渉してもらいたい。ぜひ今回のことを、今後に活かしてもらいたいと思います。

最後に、消費税の関係で伺いたいと思います。

糸魚川市の消費税総額というのはどれほどかというのは、つかんでおられますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

齊藤企画財政課長。〔企画財政課長 齊藤隆一君登壇〕

企画財政課長（齊藤隆一君）

当市の所管であります糸魚川税務署からのデータでありますけれども、納税申告額ということでご承知をいただきたいと思っておりますけれども、23年のまだデータであります。23年度の消費税の申告納付額は17億9,200万円であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

今考えられているのは5%を10%にすると。その期間がどういうふうになるかわかりませんが、そういうふうなことが考えられているということではありますが、そうなりますと約18億円の倍ですから36億円、36億円になりますと1次産業の総額を上回ると、24億円ですから、総生産額が、それだけの大きい影響を糸魚川市が受けるということになります。

市民の暮らしにも大きな影響を受けるわけでありまして、消費税増税という点では、市としても市長としても、ぜひ市民の暮らしを守るという立場で、これには賛成しないでもらいたいというふうに述べて、終わりたいと思います。

議長（樋口英一君）

以上で、新保議員の質問が終わりました。

本日はこれにとどめ延会といたします。

大変ご苦労さまでした。

午後3時32分 延会

地方自治法第123条第2項の規定により署名する。

議 長

議 員

議 員

+